

特性の分析

- ・ 特性の把握と適切な対応

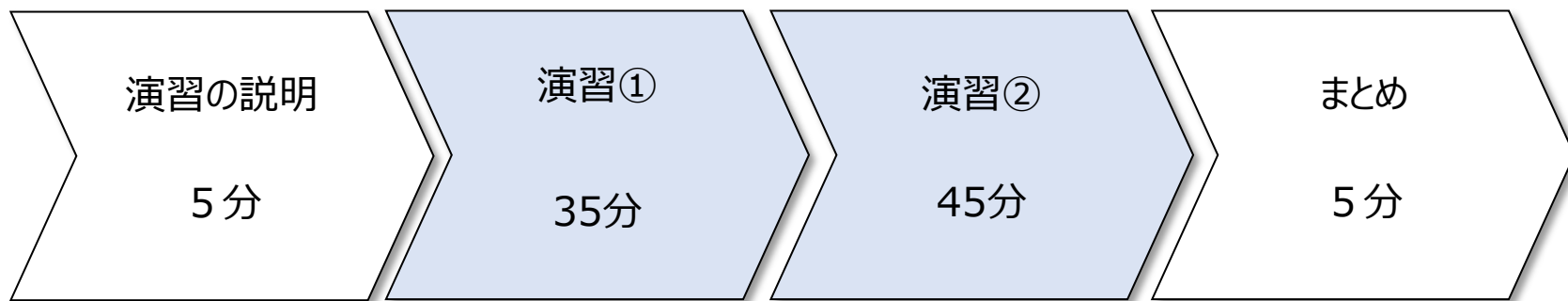
この時間で学ぶこと

- ・ 本人が表す行動について、支援者がその行動の背景にある理由が分からないため、自分なりの解釈をし、その結果として誤った対応を行ってしまうことがあります。
この時間は、行動の背景について考え、行動が起きている理由を整理する考え方を学びます。

【ポイント】

- ①補助シートを使い冰山モデルシートの使い方を学びましょう
- ②行動の背景にある【本人の特性】と【環境・状況】の相互作用を確認しましょう

この時間の流れ



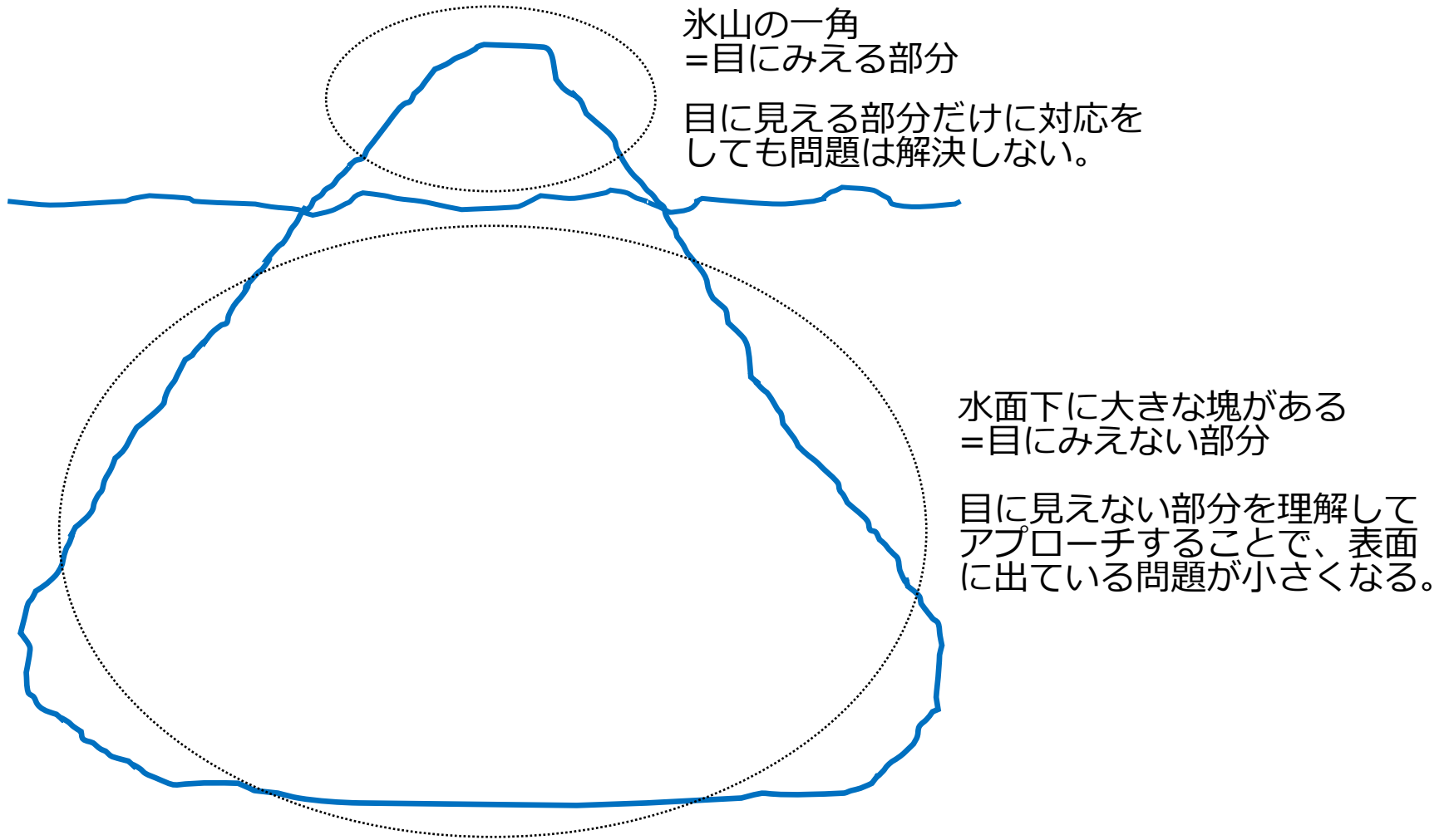
演習①：事例対象者の行動の背景を障害特性や環境から講師の解説とともに、個人ワークで学びます。

演習②：事例対象者の支援のアイデアを根拠をもとに整理する方法を個人・グループワークで学びます。

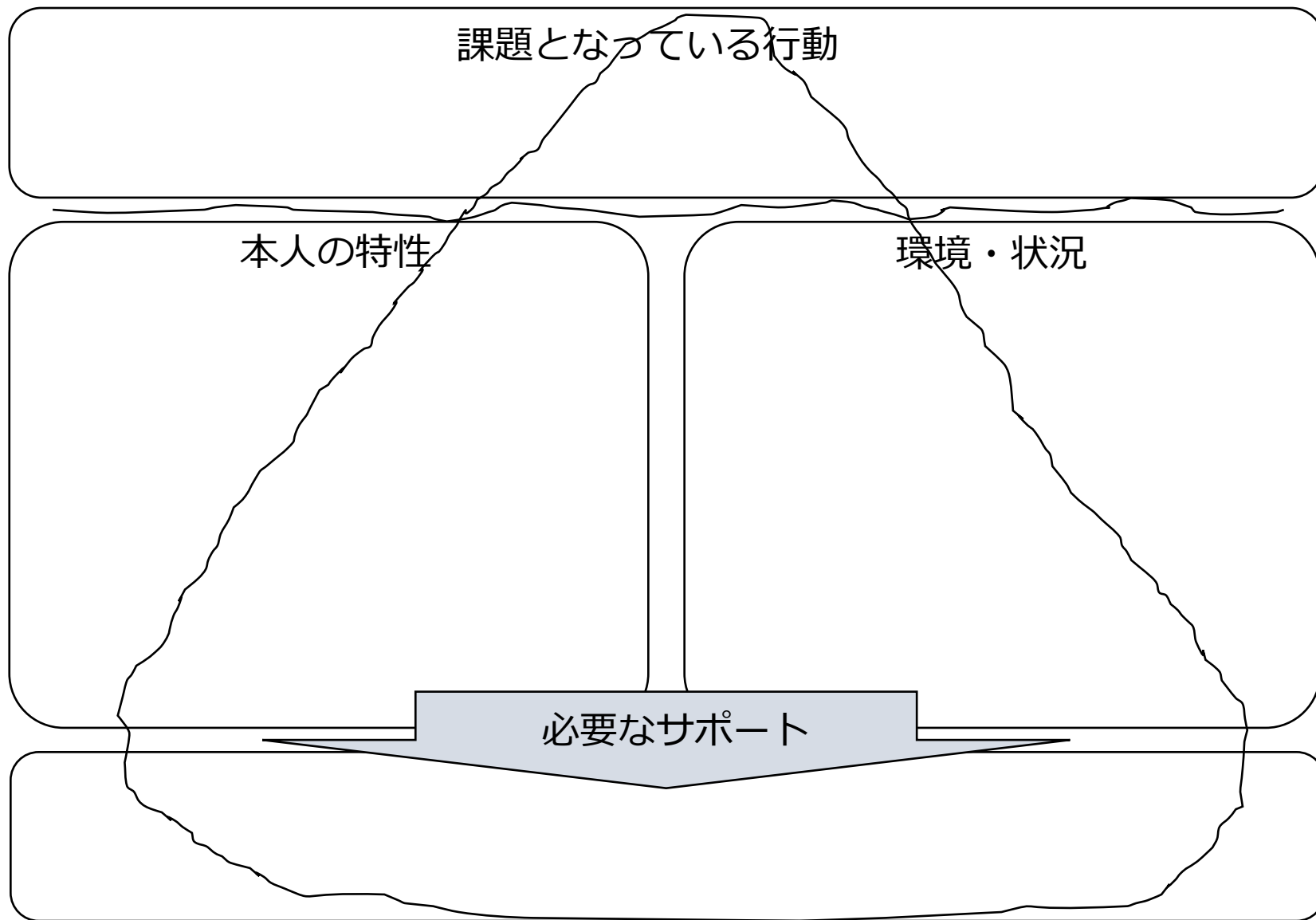
冰山って知ってますか？



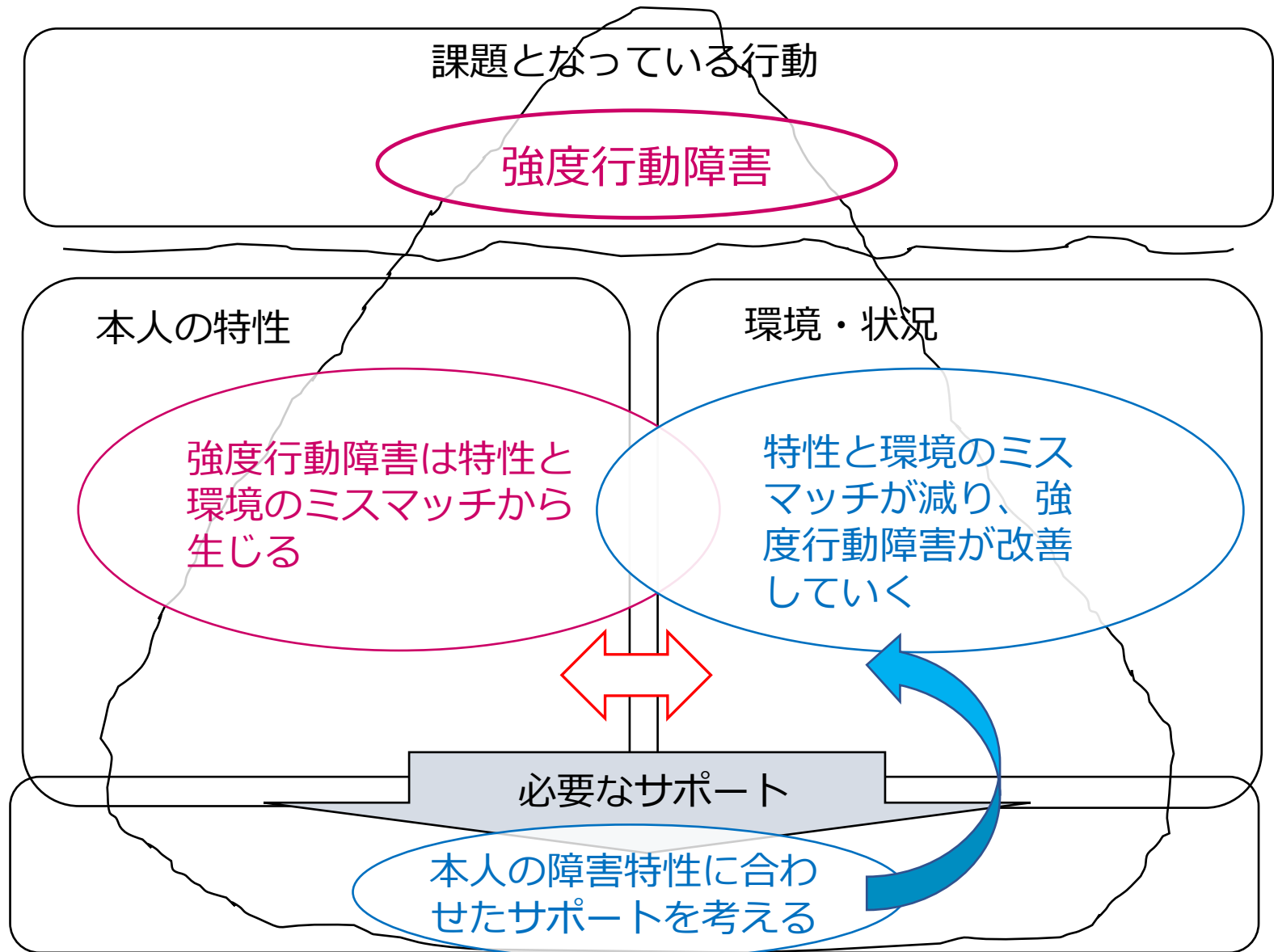
行動の背景を知るための「冰山モデル」



冰山モデルシート



氷山モデルシート



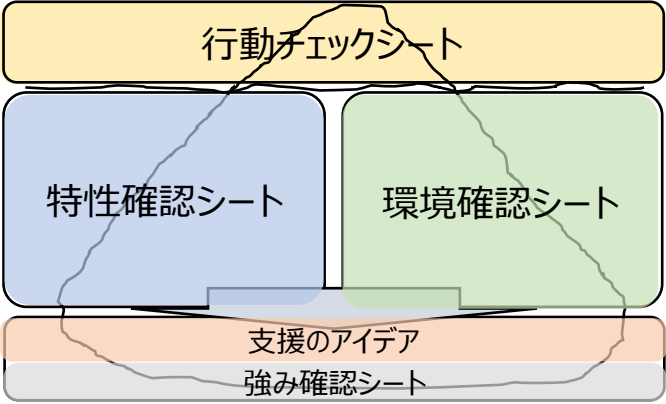
氷山モデルシートと補足シートの関係

行動チェックシート		
	例	記入の留意点や留意
準備段階	1. 準備が完了しているか	
	2. 参加者の人数を確認しているか	
	3. 参加者の名前を確認しているか	
	4. 参加者の服装を確認しているか	
実施段階	5. 参加者の服装を確認しているか	
	6. 参加者の服装を確認しているか	
	7. 参加者の服装を確認しているか	
	8. 参加者の服装を確認しているか	
確認段階	9. 参加者の服装を確認しているか	
	10. 参加者の服装を確認しているか	
	11. 参加者の服装を確認しているか	
	12. 参加者の服装を確認しているか	
評価段階	13. 参加者の服装を確認しているか	
	14. 参加者の服装を確認しているか	
	15. 参加者の服装を確認しているか	
	16. 参加者の服装を確認しているか	
フォローアップ	17. 参加者の服装を確認しているか	
	18. 参加者の服装を確認しているか	
	19. 参加者の服装を確認しているか	
	20. 参加者の服装を確認しているか	

行動チェックシート

特性確認シート		
	例	記入の留意点や留意
準備段階	1. 参加者の人数を確認しているか	
	2. 参加者の名前を確認しているか	
	3. 参加者の服装を確認しているか	
	4. 参加者の服装を確認しているか	
実施段階	5. 参加者の服装を確認しているか	
	6. 参加者の服装を確認しているか	
	7. 参加者の服装を確認しているか	
	8. 参加者の服装を確認しているか	
確認段階	9. 参加者の服装を確認しているか	
	10. 参加者の服装を確認しているか	
	11. 参加者の服装を確認しているか	
	12. 参加者の服装を確認しているか	
評価段階	13. 参加者の服装を確認しているか	
	14. 参加者の服装を確認しているか	
	15. 参加者の服装を確認しているか	
	16. 参加者の服装を確認しているか	
フォローアップ	17. 参加者の服装を確認しているか	
	18. 参加者の服装を確認しているか	
	19. 参加者の服装を確認しているか	
	20. 参加者の服装を確認しているか	

特性確認シート



強み（ストロング）確認シート	
	記入の留意点や留意
準備段階	
実施段階	
確認段階	
評価段階	
フォローアップ	

環境確認シート

強み（ストロング）確認シート	
	記入の留意点や留意
準備段階	
実施段階	
確認段階	
評価段階	
フォローアップ	

強み確認シート

氷山モデルシートと補足シートの関係

[illegible]

特性確認シート		
課題となっている行動（本人が困っている行動）		②
	背景となる可能性	背景となるタイプ
社会性	1) 相手への心の距離が近い	5) 段々近づいて来たり、親しくなったりはしますが、身体的に伝えたい（見たい）の観点、やり取りの観点
	2) 相手に手を取られていてもこれを理解するの観点がない	6) 誰かと伝えたい、やむを得ないの観点、伝える（見せたい）の観点、やり取りの観点
	3) 相手に受けたことを覚えて相手の考えを察するところが難しい	7) 「いつに」「何を」の情報を得ておくことがよくなる（方法論的観点、やり取りの観点）
	4) 周囲に話しかけてもこちらの意図が通じない	8) 本人が理解できる伝えの場面（文章、単語、絵、絵、写真、シムズ、身体表現など）で伝える（やり取りの観点、見せたいの観点）
	5) 周囲の誰かがサポートしてくれることを理解するところがない	9) 本人が得意な手段やツール（文章、単語、絵、絵、写真、シムズ、身体表現など）を提供する（やり取りの観点、見せたいの観点）
コミュニケーション	6) 伝えたいものの理解が難しい	
	7) 伝えたい観点が理解がない	
	8) 一度にたくさんのことを理解するの観点がない	
	9) 抽象的でわかりにくい表現の理解がない	
	10) 絵、文章で伝えることがない	
やり取りの観点	11) のうじくして伝えたいもの、自分分らない	
	12) 伝えたいもの、自分分らない	
	13) 周囲の人と状況に合わせてコミュニケーションが難しい	
	14) 質問や情報などの双方向コミュニケーションが難しい	
	15) やり取りの量が少ない理解が難しい	
自分で意思を立てる観点がない	16) 周囲の状況に合わせる観点がない	
	17) なんでも、伝えたいのイメージを持ってない	
	18) 今やこれと自分で判断するところがない	
	19) 先の予測をするところがない	
	20) 周囲の状況に判断することがない	
関係性	21) 自分や他の人が気づかぬところがある	
	22) 周囲の人と関わりが強い	
	23) 周囲の状況に気づかぬに敏感	
	24) 少しのことで大げさな不安を感じる	
	25) 周囲の状況が自分に関わる	
他者	26) 周囲の状況が自分に関わる	
	27) 周囲の状況が自分に関わる	
	28) 周囲の状況が自分に関わる	
	29) 周囲の状況が自分に関わる	
	30) 周囲の状況が自分に関わる	

環境確認シート		環境確認の視点	具体的な環境
項目			
人		指示は出していますか（こぼし・漏し・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をする人の立ち位置は適切ですか その他	
物		届くとお渡しするよう物はありますか 届かぬと気づくような物が見えていますか 物の量で気づくことはありますか その他	
場所		何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 視界が狭い場所・環境になっていませんか その他	
状況		本人の体調はいつと比較してどうですか その活動の頻りに本人が求める量や環境が合っていますか その活動の目的（うつろふか、とどまつか終わるのかなど）は理解できていますか	
音		その場所にはどんな音がかいていましたか その中に本人が苦手なものがあるのはありますか	
気温		その場所の気温は何℃くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度		その場所の湿度は何％くらいでしたか（あるいは蒸し暑い・乾燥している等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い		その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手なものがあるのはありますか	
その他		その他本人が不安定になる要因に本人も思っていないもの	

読み（ストレングス）確認シート	活かせる場面や状況
わかること・できること (例) ななつたてのすけわ、ペットボトルのふたを開ける / ハサミを使うのが上手 など 好きなこと（遊び方、通こし方、キャラクターなど） やりたがること (例) ハシロウで遊べる ○○のキラキラカー ビックリはまる 色を混ぜる	
得意なこと（これには助けられているなど） 見方を変えれば得意かもしれないこと (例) 目的がわかれば待つことが出来る 変更は苦手だがいつも同じことでは出来る	
その他	

行動チェックシート

特性確認シート

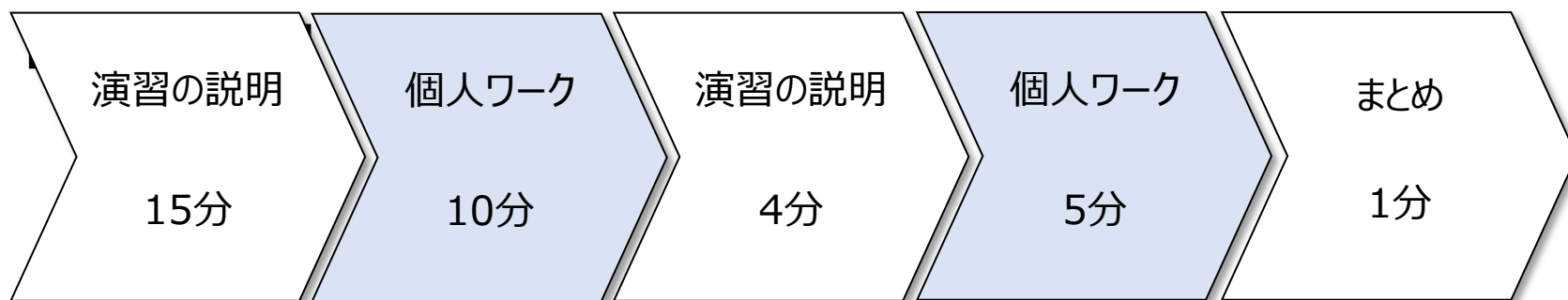
環境確認シート

強み確認シート

支援のアイデア

演習① | 行動の背景を考える

- 行動チェックシートと冰山モデルシートを使用します
- 特性確認シートと冰山モデルシートを使用します
- 環境確認シートと冰山モデルシートを使用します



田中さんの公園での水遊び

検討したい行動を見てみましょう

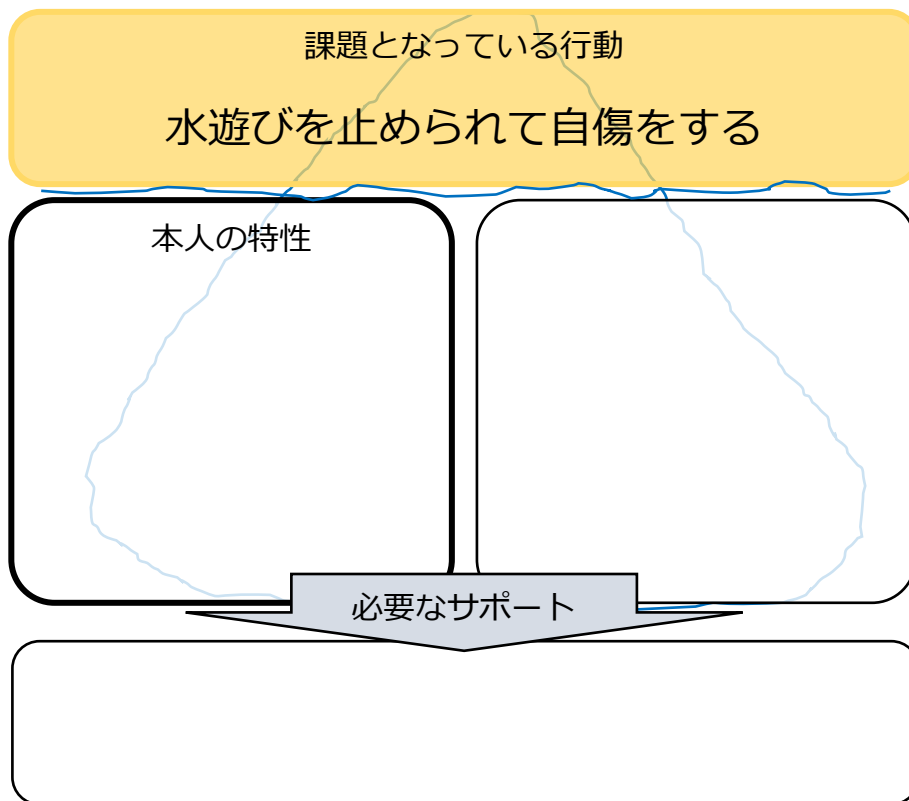


まず「行動チェックシート（冰山演習用）」と「冰山モデルシート」を使います

行動チェックシート(冰山演習用)

	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	ア: 視線が合わない	✓	ヘルパーが話しかけてもヘルパーの方を向かない
	イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
	ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	エ: 周囲に合わせて行動できない	✓	ヘルパーを置き去りにして一人で走って行く
	オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	✓	周囲の安全を気にしていない様子がない
	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	✓	横断歩道で安全確認をしないで走る 公園の水道で水遊びをする・水遊びを止められて自傷をする
コミュニケーション	キ: 言葉で指示しても行動できない	✓	ヘルパーの声掛けだけでは次の行動に移れない
	ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	ヘルパーが終わったと言ってもやめられない
	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	「行きましょうか」「行きましょうか」と答える
	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	公園の柵や水道を見ると即行動に移す
	サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	ス: やり取りが噛み合わない		
	セ: やり取りが続かない	✓	ヘルパーの声掛けにはエコーリアで答えるだけ
	ソ: 衝突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	タ: やることがないときにワロワロしている、じっとしている		
	チ: 自分から動くことができない	✓	柵につかまり揺れる、水遊びなどを自分でやめて次の活動に移ることができない
	ツ: 予定の変更と混乱することが多い		
	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
	ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
	ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	✓	水遊びをやめることができない 止められて自傷をする
	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	✓	水へのこだわりがある
	ネ: 物の一部に対する強い興味 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない 細かいことが気になるやべきことができないことがある		
感覚	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳を塞いでいる
	ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	キラキラした刺激が好き
	ヒ: 特定の触覚に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	水を触れたがる
	フ: 美味しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、などの行動がある		
	ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入らない場所がある、などの行動がある		
	ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	✓	活動の途中公園の柵につかまり揺れていた

冰山モデルシート



田中さんの気になる行動の中から検討する行動を決めます

行動チェックシート(氷山演習用)

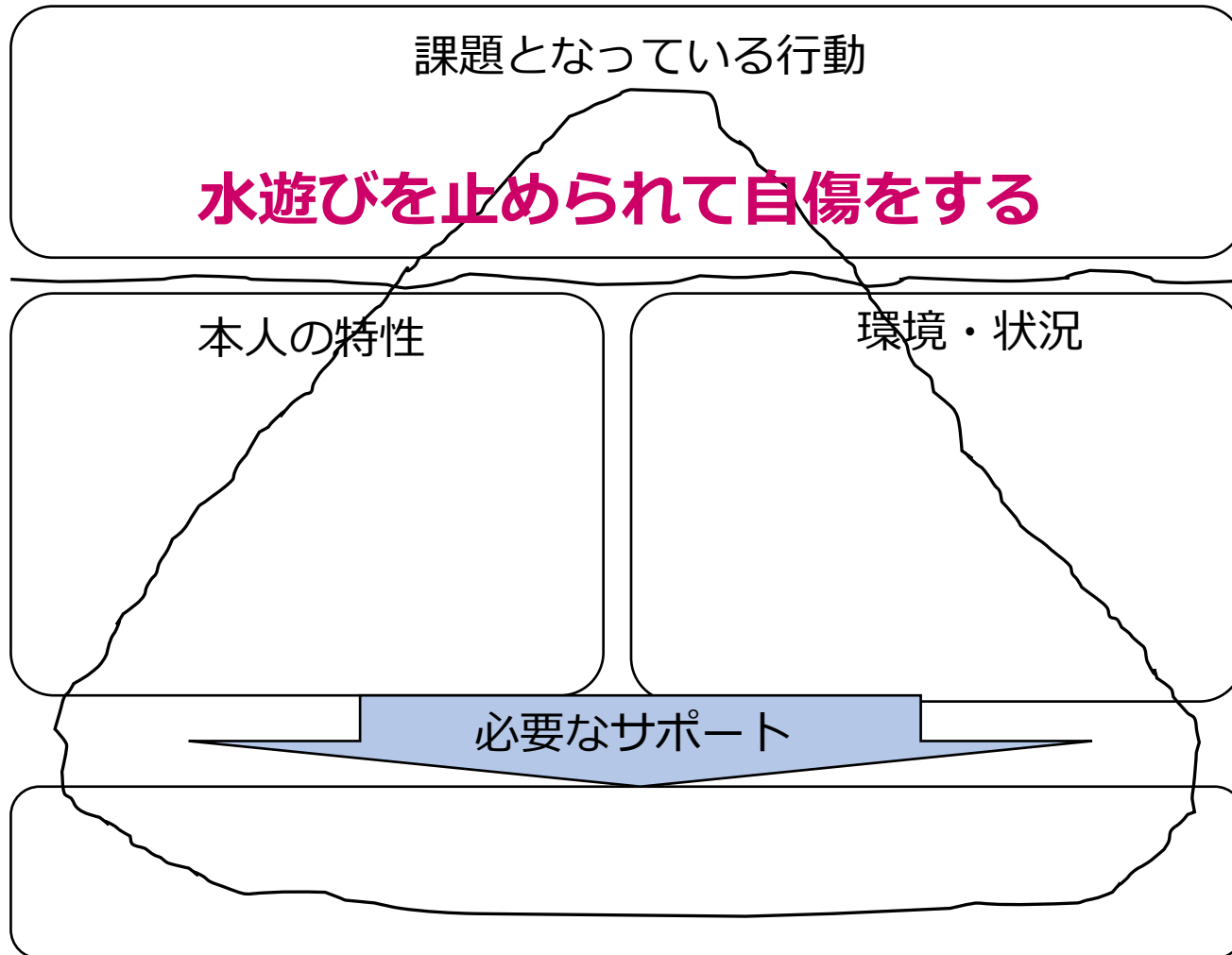
ワークシート②

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	ヘルパーが話しかけてもヘルパーの方を向かない
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	✓	ヘルパーを置き去りにして一人で走って行く
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	✓	周囲の安全を気にしている様子がない
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	✓	横断歩道で安全確認をしないで走る 公園の水道で水遊びをする・水遊びを止められて自傷をする
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	ヘルパーの声掛けだけでは次の行動に移れない
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	ヘルパーが終わりと言ってもやめられない
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す(エコーリア)	✓	「行きましょうか」に「行きましょうか」と答える
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	公園の柵や水道を見ると即行動に移す
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない	✓	ヘルパーの声掛けにはエコーリアで答えるだけ
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	柵につかまり揺れる、水遊びなどを自分でやめて次の活動に移ることができない
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えたと混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	✓	水遊びをやめることができない 止められて自傷をする
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	✓	水へのこだわりがある
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳を塞いでいる
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	キラキラした刺激が好き
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	水を触りたがる
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	✓	活動の途中公園の柵につかまり揺れていた

水遊びを止められて自傷をする

今回は、この行動について検討していくことにします

氷山モデルを使って田中さんの行動を整理します



課題となっている行動

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動

以上3つの条件のうち少なくともひとつに該当する行動と言われる。

参考文献『発達障害児の問題行動その理解と対応マニュアル』 志賀利一

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動

→自傷で田中さんがケガをするかもしれない

2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動

→大声を聞いた周囲の人が恐怖を感じるかもしれない

→支援者も恐怖を感じるかもしれない

3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動

→次の活動場所に移れないかもしれない

行動を観察するもう一つの理由

行動チェックシート(氷山演習用)

ワークシート②

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	ヘルパーが話しかけてもヘルパーの方を向かない
		イ: 人の関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	✓	ヘルパーを置き去りにして一人で走って行く
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	✓	周囲の安全を気にしている様子がない
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	✓	横断歩道で安全確認をしないで走る 公園の水道で水遊びをする・水遊びを止められて自傷をする
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	ヘルパーの声掛けだけでは次の行動に移れない
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	ヘルパーが終わりと言ってもやめられない
		ク: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	「行きましょうか」に「行きましょうか」と答える
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	公園の柵や水道を見ると即行動に移す
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス: やり取りがかみ合わない		
		セ: やり取りが続かない	✓	ヘルパーの声掛けにはエコーリアで答えるだけ
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	柵につかまり揺れる、水遊びなどを自分でやめて次の活動に移ることができない
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えようと混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	✓	水遊びをやめることができない 止められて自傷をする
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	✓	水へのこだわりがある
		ネ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳を塞いでいる
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	キラキラした刺激が好き
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	水を触れたがる
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものはかり食べる、などの行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	✓	活動の途中公園の柵につかまり揺れていた

「公園で水遊びをして止めるとパニックになるので困っている」という支援者の視点から



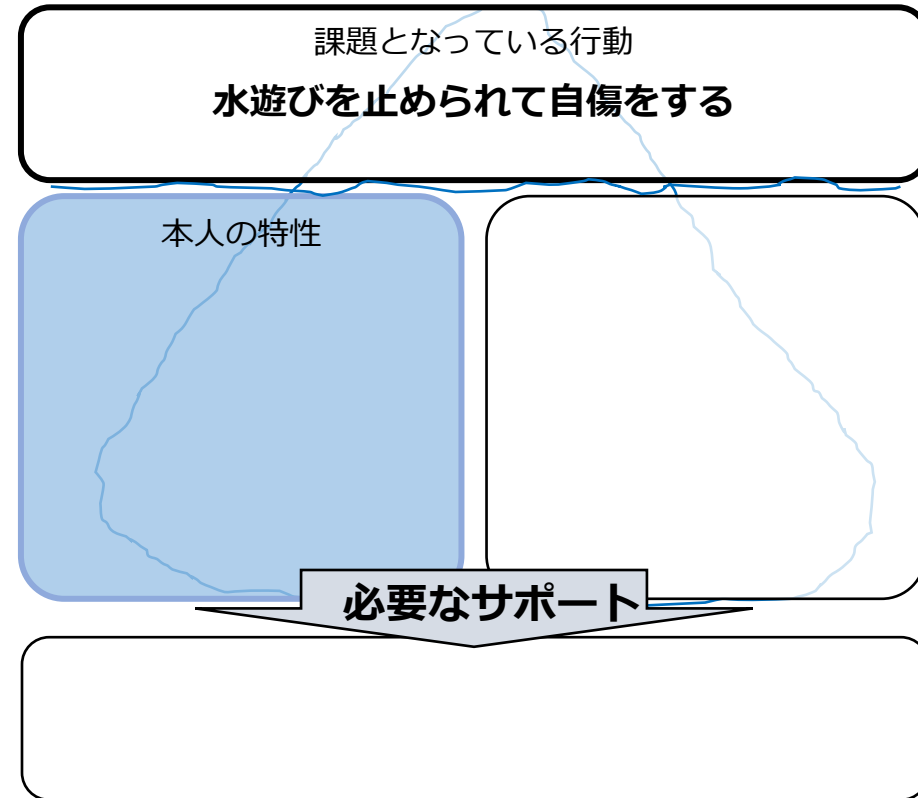
- ・ 社会性
- ・ コミュニケーション
- ・ 想像力
- ・ 感覚
- ・ 利用者が何に困っているのかを
考えることで、改めて、苦手さ
への配慮の視点に気づく

次に「特性確認シート（氷山演習用）」を使って 本人の特性を整理します

特性確認シート(氷山演習用)

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』				
		背景となる特性		支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	✓	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい		
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい		B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起きていることへの関心が薄い		
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	✓	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		6) 見えないものの理解が難しい	✓	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	✓	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい		
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい		
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	✓	
		12) 誰に伝えていいかわからない		
	やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
		15) やり取りの量が多いと処理が難しい		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい		G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点)
		17)なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい		
		18) 今やることを自分で判断することが難しい		H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		I) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい		
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい		J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		
		23) 細部が気になり違いに敏感		
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる		
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	✓	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある		
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	✓	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある		
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある		
		30) 前庭覚の特有の感覚がある		

氷山モデルシート



田中さんが水遊びを止められない理由や止められて自傷をする理由を考えます

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』					
		背景となる特性		支援のアイデア	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	✓	A) 汲み取ってもら、察してもらではなく、具体的に伝える（見え方の視点・やりとりの視点）	
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい			
		3) 相手がしているものを見て相手の考えを察することが難しい			
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い		B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える（見え方の視点・やりとりの視点）	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	✓		
		6) 見えないものの理解が難しい	✓		
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	✓	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える（方法の視点・やりとりの視点）	
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい			
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい			
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）	
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	✓		
		12) 誰に伝えていいかわからない			
	やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい			
		15) やり取りの量が多いと処理が難しい			
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい		F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）	
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい			
		18) 今やることを自分で判断することが難しい			
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点）	
		20) 臨機応変に判断することが難しい			
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい			
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点）	
		23) 細部が気になり通りに敏感			
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	✓	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点）	
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある			
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	✓		
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある			
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある			
		30) 前庭覚の特有の感覚がある			
				J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする（方法の視点）	
				K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点）	
				L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）	

田中さんが水遊びを止められない理由や 止められて自傷をする理由を考えます

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 水遊びを止められて自傷をする 』				
		背景となる特性		支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	✓	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい		
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい		
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い		B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える (見え方の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	✓	
		6) 見えないものの理解が難しい	✓	
C) どのように伝える（方法の視点・やりとりの視点）				

田中さんが水遊びを止められない理由や 止められて自傷をする理由を考えます

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 水遊びを止められて自傷をする 』				
		背景となる特性		支援のアイデア
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	✓	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい		
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい		
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	✓	
		12) 誰に伝えていいかわからない		
	やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		F) 視覚的なツールでやり取りができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
		15) やり取りの量が多いと処理が難しい		

田中さんが水遊びを止められない理由や 止められて自傷をする理由を考えてみましょう

課題となっている行動（本人が困っている行動）『水遊びを止められて自傷をする』				
		背景となる特性		支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい		G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい		
		18) 今やることを自分で判断することが難しい		H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		
		20) 臨機応変に判断することが難しい		I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい		
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする (方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感		
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる		

田中さんが水遊びを止められない理由や 止められて自傷をする理由を考えます

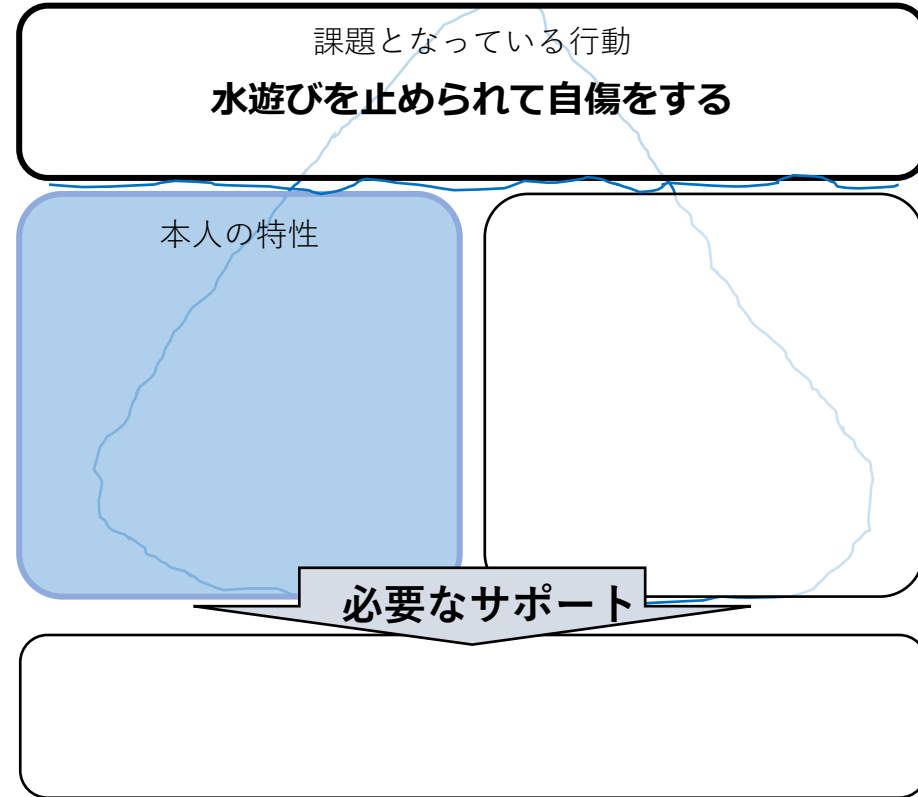
課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』					
		背景となる特性		支援のアイデア	
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	✓	K)	苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある			
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	✓	L)	好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある			
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある			
		30) 前庭覚の特有の感覚がある			

確認した特性を「冰山モデルシート」に記入しましょう

特性確認シート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	ヘルパーが話しかけてもヘルパーの方を向かない
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	✓	ヘルパーを置き去りにして一人で走って行く
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	✓	周囲の安全を気にしている様子がない
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	✓	横断歩道で安全確認をしないで走る 公園の水道で水遊びをする・水遊びを止められ自傷する
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	ヘルパーの声掛けだけでは次の行動に移れない
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	ヘルパーが終わりと言ってもやめられない
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	「行きましょうか」「行きましょうか」と答える
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	公園の柵や水道を見ると即行動に移す
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やり取りが難しい	ス: やり取りが飲み合わない		
		セ: やり取りが続かない	✓	ヘルパーの声掛けにはエコーリアで答えるだけ
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	柵につかまり揺れる、水遊びなどを自分でやめて次の活動に移ることができない
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	✓	水遊びをやめることができない 止められて自傷をする
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	✓	水へのこだわりがある
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳を塞いでいる
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	キラキラした刺激が好き
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	水を触れたがる
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いが入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッピングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	✓	活動の途中公園の柵につかまり揺れていた

冰山モデルシート



課題となっている行動

水遊びを止められて自傷をする

本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やることが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

環境・状況

必要なサポート

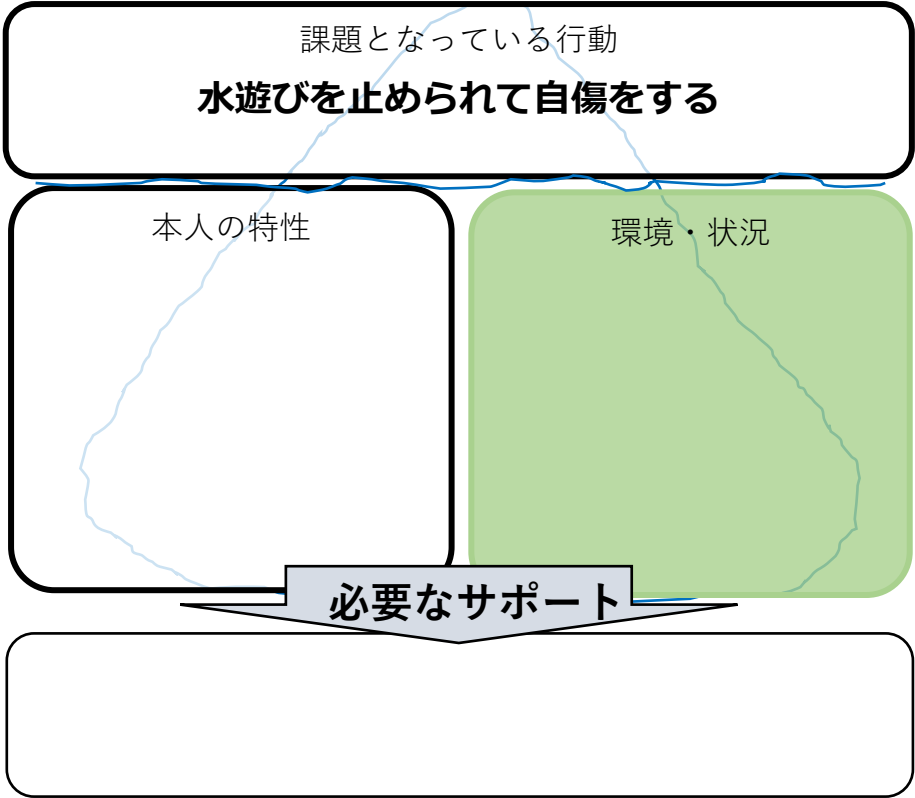
(

次に「環境確認シート」を使って本人の特性を整理します

環境確認シート（冰山演習用）

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見えると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	水道が見えやすい
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	公園での目的は「柵でゆれる」か、 「水道で遊ぶ」に見えていた
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感覚などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	どうなったら終わりがわかりにくい 公園に何をしに行ったのかわからない
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

冰山モデルシート



次のような項目を点検していきます

環境確認シート（氷山演習用）

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見えると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	水道が見えやすい
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	公園での目的は「柵でゆれる」か、「水道で遊ぶ」に見えていた
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	どうなったら終わりかがわかりにくい 公園に何をしに行ったのかわからない

次のような項目を点検していきます

環境確認シート（冰山演習用）

項目	環境確認の視点	具体的な環境
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

「人」について気づいたことを記入してみましょう

環境確認シート（氷山演習用）

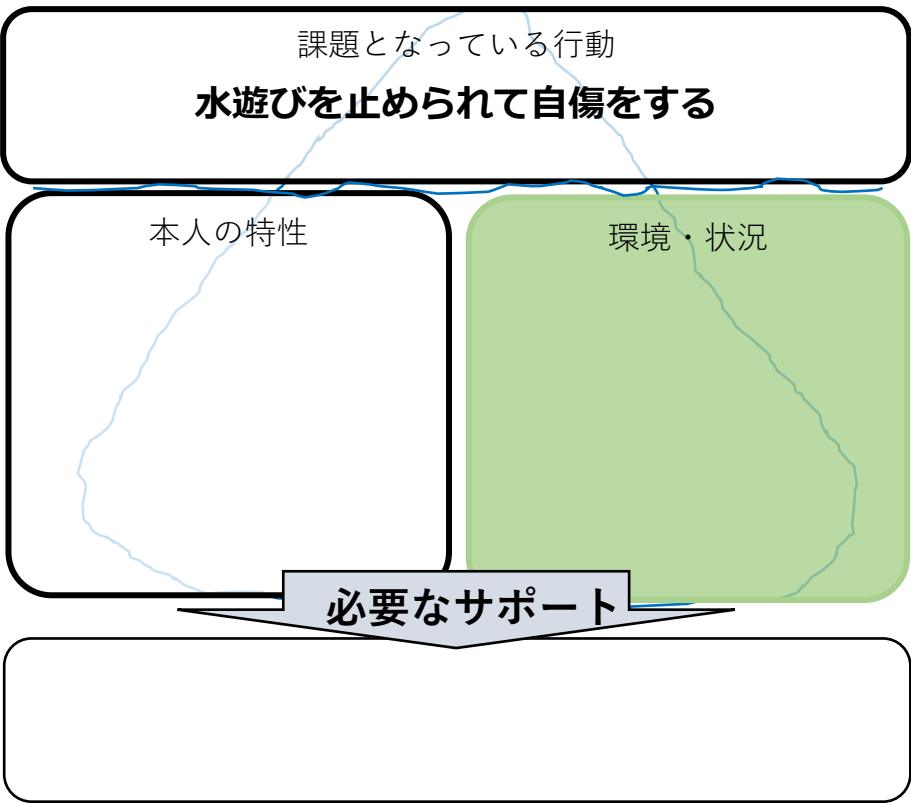
項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	水道が見えやすい
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	公園での目的は「柵でゆれる」か、「水道で遊ぶ」に見えていた
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	どうなったら終わりかがわかりにくい 公園に何をしに行ったのかわからない

確認した環境を「冰山モデルシート」に記入しましょう

環境確認シート（冰山演習用）

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（ことば・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物はありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	水道が見えやすい
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていきますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	公園での目的は「柵でゆれる」か、 「水道で遊ぶ」に見えていた
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	どうなったら終わりがかわりにくい 公園に何をしに行ったのかわからない
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものです	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものです	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

冰山モデルシート



課題となっている行動

水遊びを止められて自傷をする

本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やることが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

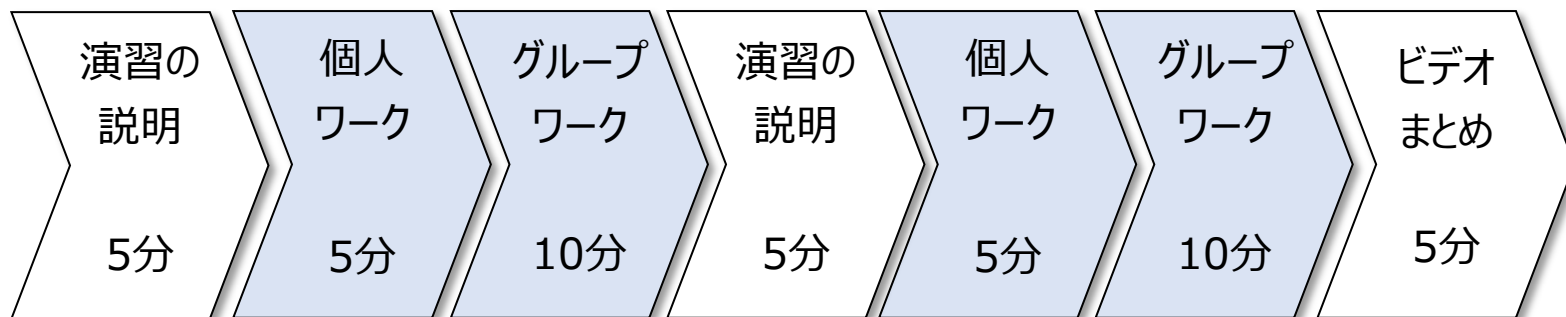
環境・状況

必要なサポート

演習② | 支援のアイデアを考える

- 特性確認シートと冰山モデルシートを使用します
- 強み確認シートと冰山モデルシートを使用します

【演習の流れ】

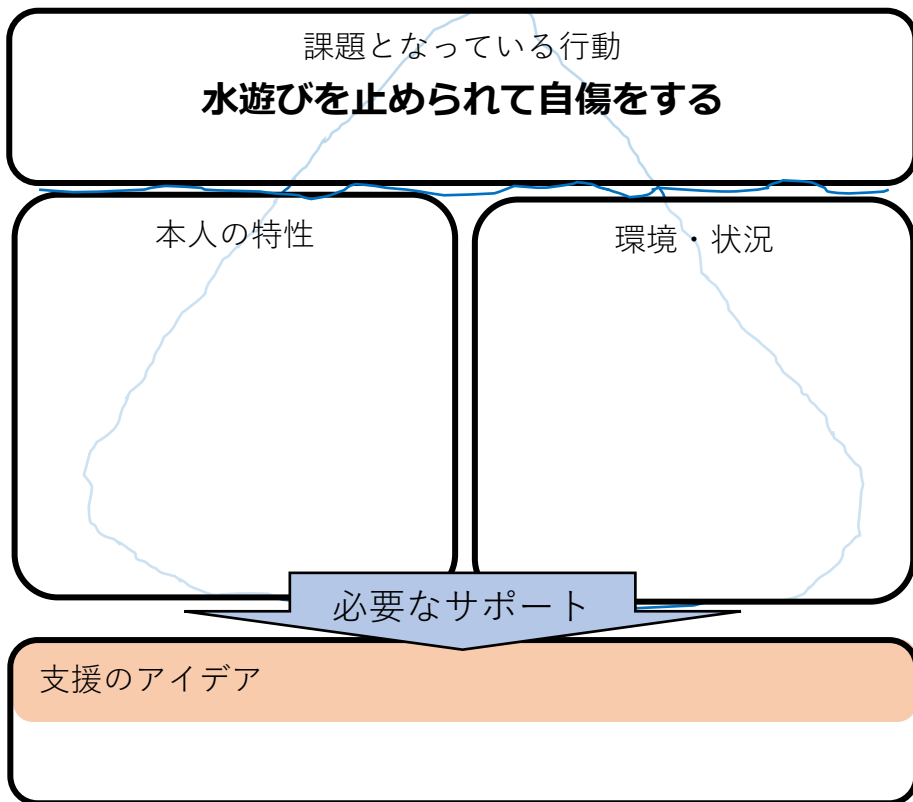


次に必要なサポートを、「特性確認シート（氷山演習用）の支援のアイデア」を使って整理します

特性確認シート（氷山演習用）

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
	背景となる特性		支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	✓
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	A) 涙み取ってもらふ、察してもらふではなく、具体的に伝える（見え方の視点・やりとりの視点）
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える（見え方の視点・やりとりの視点）
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起きていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	✓
		6) 見えないものの理解が難しい	✓
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	✓
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたいのか分からない	✓
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やり取りが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やり取りの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測することが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍感がある	✓
		26) 視覚の過敏や鈍感がある	
		27) 触覚の過敏や鈍感がある	✓
		28) 嗅覚の過敏や鈍感がある	
		29) 味覚の過敏や鈍感がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

氷山モデルシート



個人ワーク | 支援のアイデアを選ぶ

1. 特性確認シート（冰山演習用）の支援のアイデアから、田中さんの支援に使えるようなものを2～3項目選びます。
2. 冰山モデルシートの必要なサポート欄に転記します。

グループワーク | 支援のアイデアを考える

1. 司会・記録を決めます
2. 選んだアイデアをグループで共有します

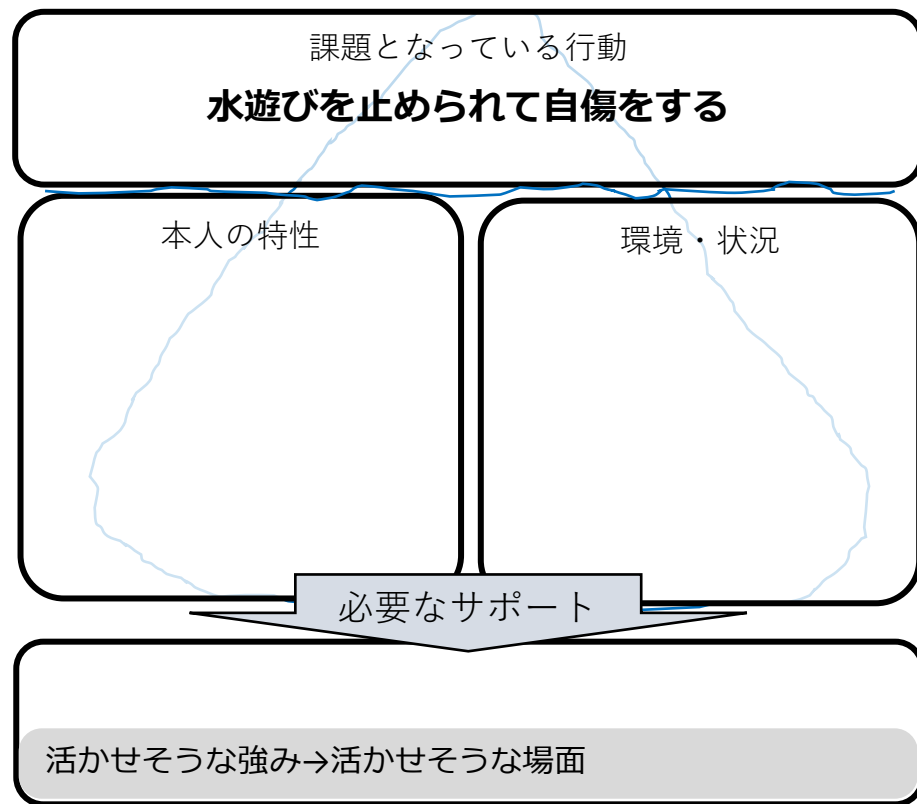
※ワークシート⑥「冰山モデルシート（グループ用）」に記入

さらに「強み(ストレングス) 確認シート」を使って 具体化します

強み(ストレングス) 確認シート (冰山演習用)

本人の強み (ストレングス)	活かせそうな場面や状況
わかること・できること 例) なくなったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など ・長い距離でも歩くことができる ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある	
好きなこと (遊び方、過ごし方、キャラクターなど) やりたがること 例) ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ビットリはまる 色を合わせる ・キラキラするものが好き ・静かな部屋で一人で過ごす ・同じマークを見つけると重ねている ・ゆれる感覚に没頭することがある	・マークを使って活動の理解ができないか ・ゆれる感覚で適切な遊びを提供できないか
得意なこと (これには助けられているなど) 見方を変えれば得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる ・こちらの意図がわかれば素直に応じてくれる ・人には関心がないが物には注目できることが多い	・物を使ってルールを伝えることはできないか ・タイマーで終わりを伝えられないか
その他	

冰山モデルシート



強み（ストレングス）を活用します

強み（ストレングス）確認シート（冰山演習用）

本人の強み（ストレングス）	活かせそうな場面や状況
わかること・できること 例）なくなったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など ・長い距離でも歩くことができる ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある	
好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること 例）ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ピッタリはまる 色を合わせる ・キラキラするものが好き ・静かな部屋で一人で過ごす ・同じマークを見つけると重ねている ・ゆれる感覚に没頭することがある	 ・マークを使って活動の理解ができないか ・ゆれる感覚で適切な遊びを提供できないか
得意なこと（これには助けられているなど）見方を変えれば得意かもしれないこと 例）目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる ・こちらの意図がわかれば素直に応じてくれる ・人には関心がないが物には注目できることが多い	 ・物を使ってルールを伝えることはできないか ・タイマーで終わりを伝えられないか
その他	

個人ワーク | 活かせそうな強みと場面

1. スtrenグスシート**の強みを見ながら、支援に活かせそうな場面や状況を考えます。**
2. 氷山モデルシート**の必要なサポート欄に支援に活かせそうな強みと活かせそうな場面を転記します。**

グループワーク | 活かせそうな強みと場面

1. 司会・記録を決めます
2. 活かせそうな場면을グループで共有します

※ワークシート⑥「冰山モデルシート（グループ用）」に記入

氷山モデルシートが完成しました

課題となっている行動 水遊びを止められて自傷をする

本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やることが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

環境・状況

人：支援者はことばで指示を出している
物：水道が見えやすい場所へ出かけている
場所：公園での目的が柵でゆれるか、水道で遊ぶかに見えていた
状況：どうなったら終わりかがわかりにくい
状況：公園に何をしに行ったのかわからない

必要なサポート

(支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報で伝える
- G) 本人にわかりやすく予定を伝える

(活かせそうな強み→活かせそうな場面)

- ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる→活動の切り替えにお茶を使えないか
- ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある→イラストで活動を知らせられないか
- ・物に注目できる→タイマーなどで終わりを伝えられないか
- ・揺れる感覚に没頭することがある→揺れる感覚で適切な遊びを提供できないか



動画を視聴します

- 支援のアイデアを強みを活かして具体化し、支援手順書を作成しました。
- 支援手順書を使って支援した動画を視聴します。

演習のまとめ | 行動の背景と捉え方

- 課題となる行動には、障害特性に起因する何らかの理由がある
- 「冰山モデル」を使った行動の背景を捉える考え方が有効
- 「本人の特性」と「環境や状況」を整理し課題となっている要因を明らかにする事が根拠に基づいた適切な支援の第1歩
- 導き出された支援のアイデアは、本人の強みを使って具体化される

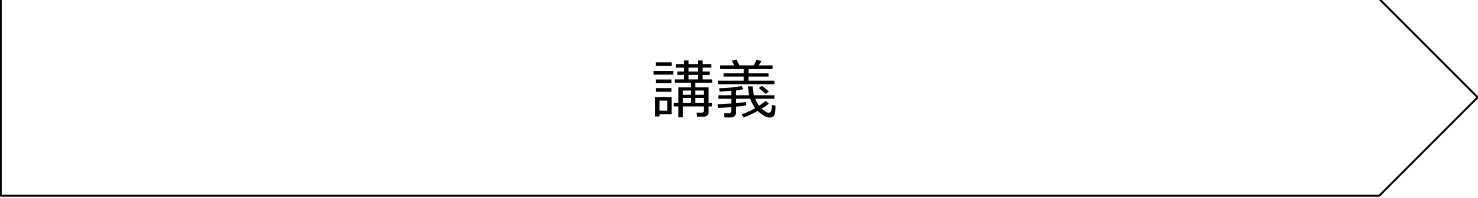
チームプレイの基本

- ・ チームプレイの必要性

この時間で学ぶこと

- 強度行動障害の状態にある方への支援は、本人の生活の様々な場面や、本人の人生のそれぞれのライフステージにおいて関わる支援者が、本人を中心としたチームの一員として、同じ方針に沿った統一した支援をすることが大切です。
- 支援現場で統一した支援を提供するために、サービス等利用計画や個別支援計画に基づいた「支援手順書」や「支援記録」が大切です。

この時間の流れ



講義

- ①チームで支援する必要性
- ②統一した支援をするために
- ③サービス等利用計画・個別支援計画・支援手順書
- ④支援の実施と記録

①チームで支援する必要性

事業所の中では、
複数の職員が本人に関わります。

グループホーム



田中さん

世話人Aさん

世話人Bさん

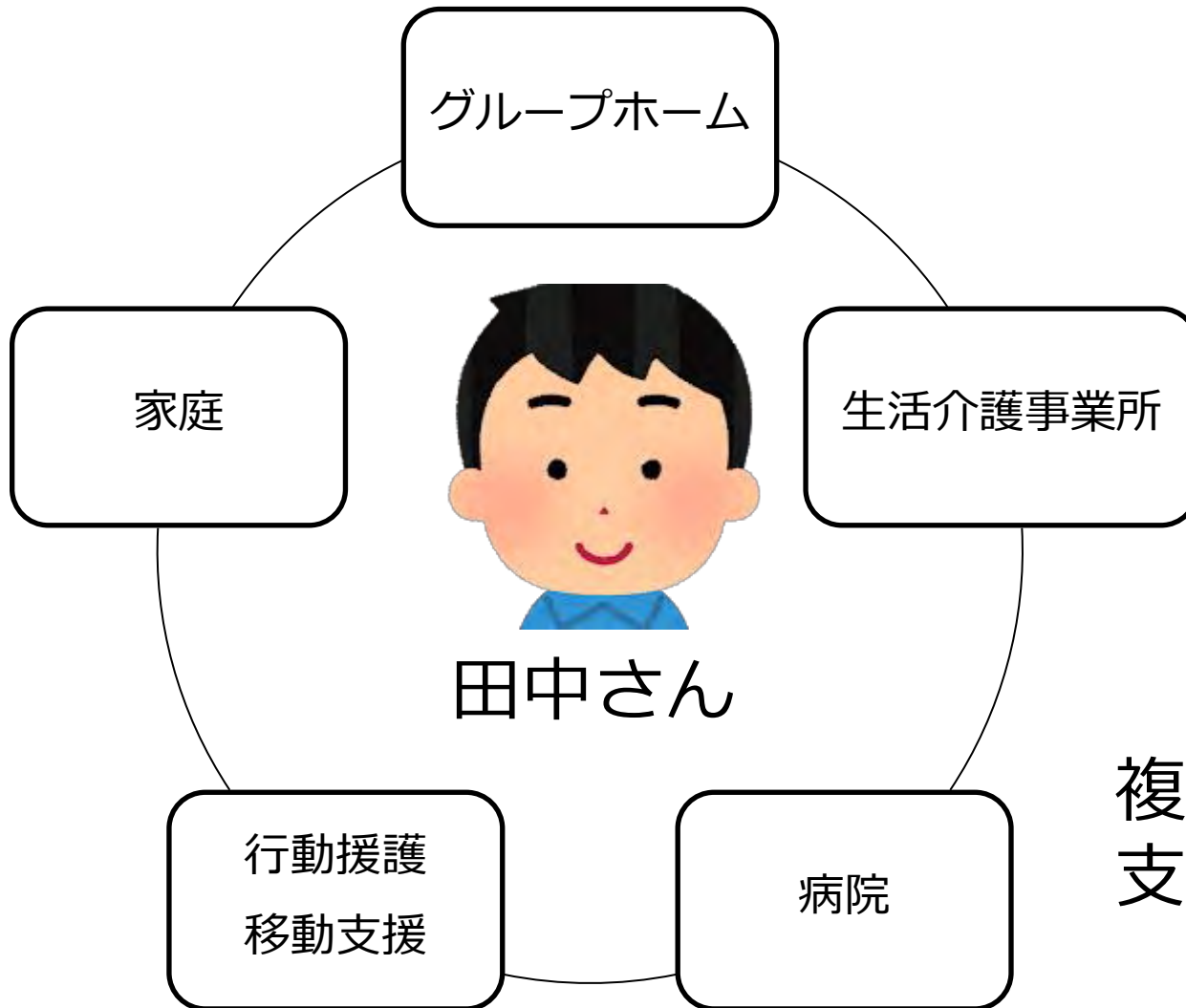
グループホーム
管理者

世話人Cさん

複数の支援者が関わる

本人の現在の生活は、
さまざまな関係者で支えられています。

田中さんの生活



複数の事業所や
支援機関が関わる

本人の支援は、

現在の関係者だけでなく、過去・現在・
未来の関係者もつながっています。

田中さんのライフステージ



乳幼児期から成人期まで、様々なライフステージがありそれぞれに事業所や支援者が関わる

一日で考えてみると、
様々な生活場面で成り立っている。

- 暮らしの場面（家庭やグループホームなど）
- 日中活動の場面（保育園や学校、福祉事業所など）
- 外出の場面（家族や行動援護など）

→それぞれの場面に関わる関係者がちがう。

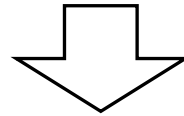
- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

関係者が必要な支援や特性を共有することが重要

それぞれの関係者が、本人の特性に関係なく、
思い思いのやり方で接してしまうと・・・



本人が混乱してしまう。

それぞれの場面やライフステージにおける関係者が、
本人を支えるチームのメンバーとして、
本人の特性や配慮すべきことについて共通の認識を持ち、
同じ方針に沿った統一した支援をしていくことが大切。

②統一した支援をするために

チームにおける情報共有や連携の方法

- 日ごろからお互いに頻繁なやり取りをする
- 個別の支援会議（ケース会議）を開催
- サービス等利用計画
- 個別支援計画
- 支援手順書

③サービス等利用計画・
個別支援計画・
支援手順書

本人ニーズに基づく支援計画

「本人ニーズ」

夢や目標、支援してほしいこと、困っていること

- ・ コミュニケーションの苦手さを補う支援
- ・ 困りごとの背景にある障害特性や環境要因を知る
- ・ 自己決定のための本人にあった情報提供

本人ニーズに基づく支援計画を考えるためには、
特性の理解とアセスメントの視点が欠かせない

サービス等利用計画

本人の望む生活に対し、支援機関がそれぞれどのような役割を果たしチームで支えていくことを示したものの。

本人の望む生活や目標

サービス等利用計画



グループホーム



日中活動や就労の支援

全体の計画



相談支援

サービス等利用計画

利用者氏名（児童氏名）	田中さん	障害支援区分	区分6	相談支援事業者名	〇〇相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	〇〇〇〇
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			
計画作成日	〇年△月□日	モニタリング期間（開始年月）	3ヶ月（次回：〇年□月）	利用者同意署名欄	

利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活）	グループホームで暮らしながら、自分の望む生活を送りたい。 週末は、外出をして好きなところにでかけたり、公園で遊んだり、買い物をしたいと思っています。
総合的な援助の方針	本人が落ち着いて活動できるように、環境を整えながら自分から積極的に活動できるように手伝います。
長期目標	自分で予定を組み立てながら、グループホームで自分らしい生活がおくれるようになる。
短期目標	気になることがあるとずっと続けてしまったり、思うように活動できないとパニックになってしまうので、落ち着いて活動できるようになりたい。

優先順位	解決すべき課題（本人のニーズ）	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量（頻度・時間）	提供事業者名（担当者名・電話）			
1	平日、毎日通い安定した生活リズムを維持しながら、仕事をがんばりたい。	無理しすぎない程度に仕事を設定して、1日の日中の活動リズムを組み立て生活する。	6ヶ月	生活介護 -8日／月 10:00-16:00 軽作業、余暇活動など	〇〇生活介護 担当：Aさん 電話：〇〇-△△△△	決めた日程に沿って活動し、落ち着いて過ごせるようなリズムを整えて行く。	3ヶ月	落ち着かない時は、原因を分析しながら、本人がわかりやすい環境などを整えてください。
2	不安な気持ちを和らげ穏やかに生活を送りたい。	落ち着いて活動できるような環境を作りながら、不穏な気持ちを表現できるようにになる。	3ヶ月	生活介護 -8日／月 共同生活援助	〇〇生活介護 担当：Aさん グループホーム△△ 担当Bさん	不穏になった時に、何が原因なのか表現できるように環境や道具を揃え得ていく。	3ヶ月	不安なことを伝えられない様子がありましたら、環境設定をお願いします。
3	休みの日は、外に出かけて、楽しく過ごしたい。	休日で、天気の良い日は、楽しめる遊びを行う。	6ヶ月	行動援護 40時間／月 （週休2日のうち、どちらか）	ヘルパーステーション □□□ 担当：Cさん	遊びたい事などを、順番や時間を決めて、楽しめるようになる。	3ヶ月	好きな事はやり続けてしまうことがあるので、気をつけてながら楽しく過ごせるように
4	困ったことがあって、普段関わる人に相談しづらい時に相談したい。	自分では解決できない悩みや疑問を気軽に相談できるように。	6ヶ月	計画相談	〇〇相談支援事業所	定期的に訪問してもらった時などに、不安な事があったら相談する。	6ヶ月	定期訪問以外の時に話したいような訴えがあった場合は、職員を通じて連絡をください。

サービス等利用計画【週間計画表】

利用者氏名（児童氏名）	田中さん	障害程度区分	区分6	相談支援事業者名	〇〇相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	〇〇〇〇
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画開始年月	〇年〇月
--------	------

	月	火	水	木	金	土	日	主な日常生活上の活動
6:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	日中は、グループホームから少し離れた生活介護に通いながら、軽作業や余暇活動に取り組んでいる。
	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床	
8:00	朝食・トイレ・準備	朝食・トイレ・準備	朝食・トイレ・準備	朝食・トイレ・準備	朝食・トイレ・準備	朝食・トイレ	朝食・トイレ	週末は、主に土曜日は行動支援を使いヘルパーと一緒に外出し、日曜日は実家に帰省し家族と過ごしている。
	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎			
10:00	生活介護	生活介護	生活介護	生活介護	生活介護	TV	実家に帰省	外出の予定が日曜日の場合は、土曜日に帰省するか、その週は帰省しないことも自分で選んで決定している。
12:00						昼食		
14:00						外出など		
16:00	送迎	送迎	送迎	送迎	送迎			週単位以外のサービス
18:00	帰宅・おやつ	帰宅・おやつ	帰宅・おやつ	帰宅・おやつ	帰宅・おやつ	部屋の掃除	帰宅・おやつ	通院：生活介護で対応（2ヶ月に1回）
	入浴	リビングで過ごす	入浴	リビングで過ごす	入浴		入浴	
	洗濯		洗濯		洗濯	洗濯		
	20:00	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯	
22:00	歯磨き	歯磨き	歯磨き	歯磨き	歯磨き	歯磨き	歯磨き	
	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV	
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	
2:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像	ちょっとしたキッカケで、行動が乱れることがあり、今まで出来ていた行動が突然できなくなることがあります。 崩れてしまった時は、無理強いせず環境の配慮などを本人と相談しながら調整・決定し試していくことで自分で決定し困らないように自分の予定などを組み立てていく能力を身に付けていくことができます。 また、現在グループホームで生活していますが、一人でできることが増えてきたところで、一人暮らしなどの評価も受けつつ、目標設定をしていくことで、高齢の家族に頼りすぎることなく日常生活を送れるようになる。
----------------------	---

個別支援計画

サービス等利用計画で示された役割を基に、支援機関ではどのような目標をもち、何に配慮して支援をするのか、具体的な目標と支援内容を記入した計画

本人の望む生活や目標

サービス等利用計画



グループホーム

個別支援計画



日中活動や就労の支援

個別支援計画

全体の計画



相談支援

個別支援計画

利用者氏名：田中さん

○年○月○日

サービス等利用計画の 総合的な援助の方針	本人が落ち着いて活動できるように、環境を整えながら自分から積極的に活動できるように手伝います。」
利用者及び家族の希望・ニーズ	休みの日は、外に出かけて、楽しく過ごしたい。
行動援護における支援の方針	外出の時に、混乱しないよう環境を整えたり、わかりやすく予定や時間の提示を行い楽しめるように手伝います。
長期目標	好きなことを楽しみながら、自分で活動を管理できるようになる。
短期目標	理解できる予定などを活用して、一つひとつの活動を楽しめるようになる

具体的な到達目標及び支援計画等

具体的な到達目標	本人の役割	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	担当者	優先順位
公園で好きな遊びを楽しみたい。	ブランコなどは回数、水遊びは時間を決めて楽しむ	好きな遊びを途中で止めると自傷行為などが始まるため、終わりを提示し次の活動にスムーズに切り替わるようにする。	公園などで、好きな活動を行う場合	ヘルパー	1
活動の合間に、適度な休憩をとり水分補給などを行う。	一旦活動をやめ、水分補給と休憩をし、次の活動に移る	「休憩」もしくは「おちゃ」のカードを提示して休憩をうながし、休める場所に誘導してください。			
外食を楽しみたい。	食べたいものを選択して、おいしく食事をたのしむ	食事のメニューで混乱する場合は、メニューを事前に提示もしくは、選択肢をある程度絞り込んだ上で選択してもらい、食べたいものをスムーズに頼めるようにしてください。 行きなれたお店では、注文するものも本人が決める事ができるため、見守りでかまいません。 食事中は、基本的には見守りでかまいません。	外食をする場合	ヘルパー	2
移動中の安全確認などを行う	危険な場所や交差点などでは安全を確認しながら行動する	突然走り出してしまうことがあるため、安全に注意を図りながら、交差点などでは一旦停止して安全を描くにんするよう支援し促していく	移動中	ヘルパー	1

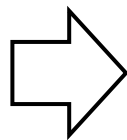
支援手順書

個別支援計画の内容から、具体的な活動とそのスケジュール・必要な配慮の方法などをその人に合わせて詳細に記入したもの



グループホーム

個別支援計画



具体的な活動の例



(スケジュール確認)

支援手順書



(お風呂掃除)

支援手順書

具体的な活動や必要な配慮

支援手順書（例）

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	田中さんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差して予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	田中さんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時は田中さんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づくとき走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前には手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認。(活動カードを外す) ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認(活動カードを外す)、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える * 田中さんが水遊びを始めた時は、タイマーを10秒にセットし、田中さんに見える様にセットし、「10秒でおしまい」と声掛け。 タイマーがなったら田中さんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店前でスケジュール確認(活動カードを外す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。			
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認(活動カードを外す) 家族に田中さんの様子を伝える。			

* スケジュール確認の手順

- ・スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
- ・活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
- ・次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し単語で伝える

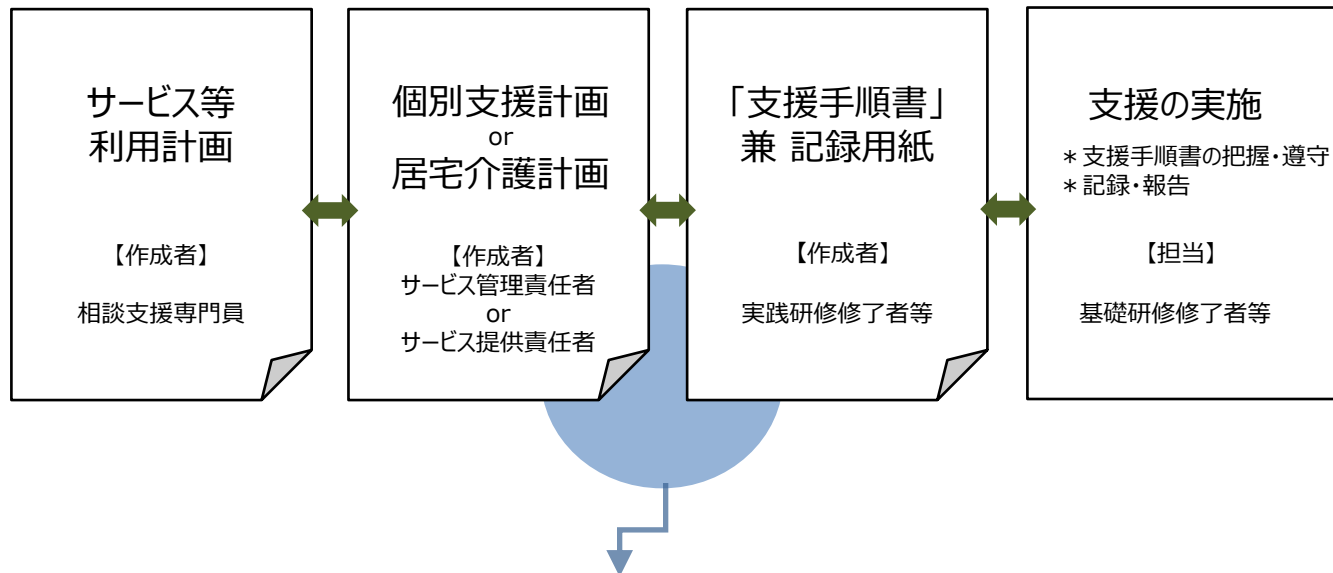
* 本人と関わる際の注意点

- ・声掛けが多くなると混乱しやすいので、声かけは最小限にする
- ・公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことあり
- ・事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する

現場で支援を実施するときには、
支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援

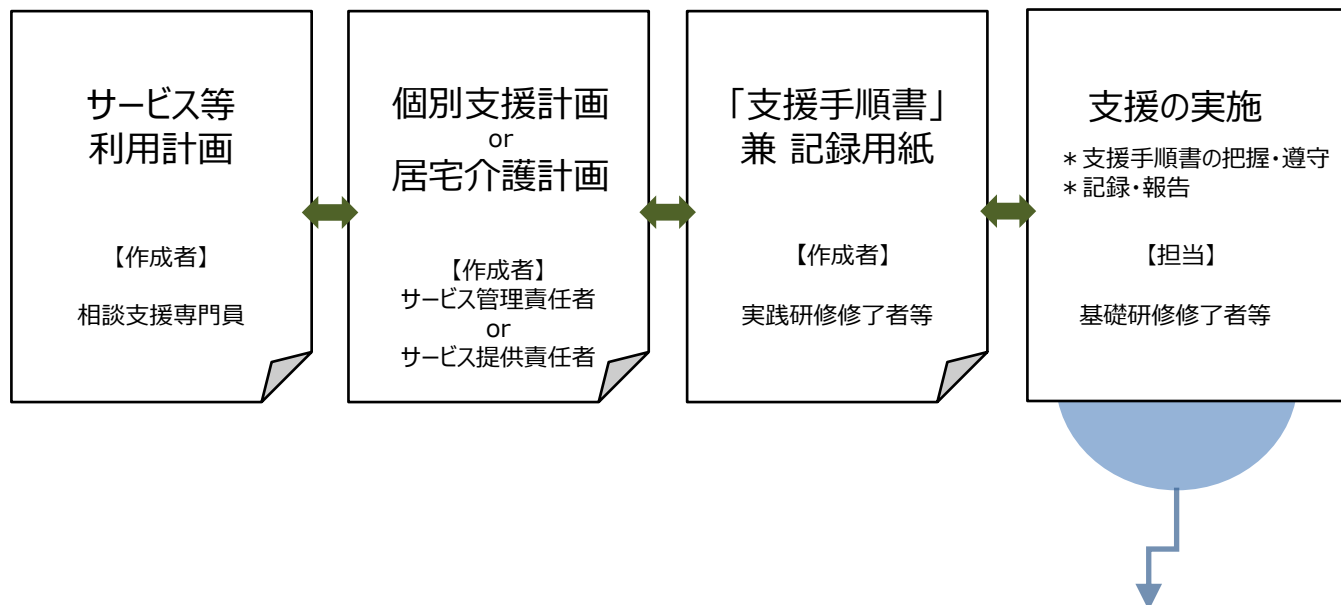
個別支援計画と支援手順書の関係



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援 内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

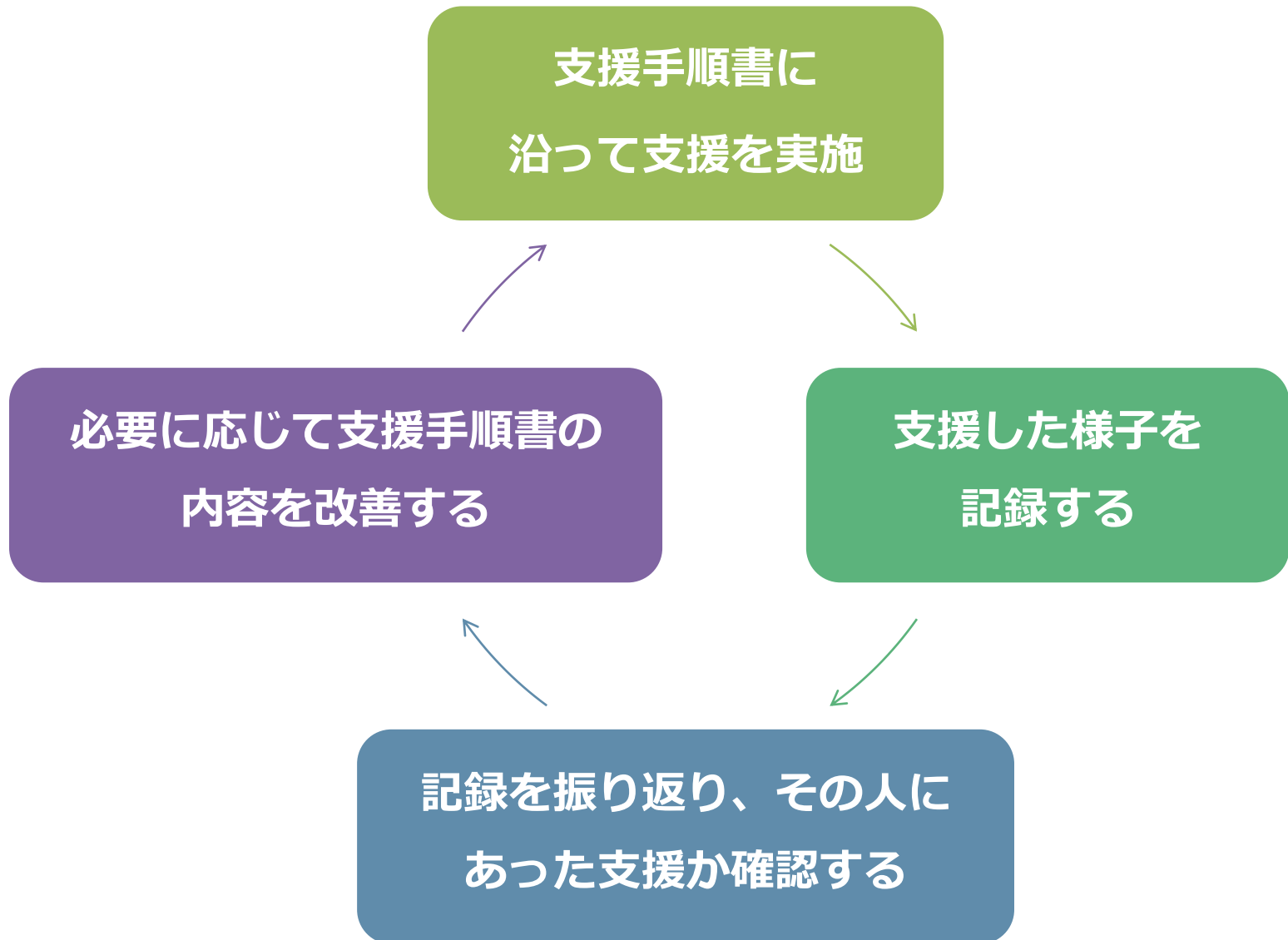
④支援の実施と記録

支援の実施と記録



実際の支援に入る時には、支援手順書に沿って支援をすること、支援時の本人の様子などを記録しておくことが大切。

支援の実施



支援手順書に従って支援する際の留意点

事前に確認しておくポイント

事前準備	支援ツールの準備など、事前の準備が大切
支援手順書の内容	支援者が支援手順書の内容を理解できているか内容に変更がないか
その日の状況	体調（睡眠、排便、てんかん発作などのリズムなど）やその日の状況（自宅でいつものこだわりができなかったなどで、落ち着かない様子など）にも影響を受けやすいので確認しておく

記録の重要性

正しい状態像をつかむ

チームで情報を共有する

支援の効果を確認する

支援のベース

正しい状態像をつかむ

- ・ 大変な人？ 大人しい人？・・・など印象では具体的な状態像がわからない
- ・ いつ、どこで、どのような行動をとっているかなど、具体的な情報から正しい状態像を知る
- ・ 正しい状態像を知ることで、その人にあった支援につながる

情報共有の重要性

- ・ チームで支援したり、対応を考えていく上で情報共有は重要
- ・ 直接の関わりで得られた情報をチームで共有する

情報共有のベースとなる記録

例

今日は大変
だった

何が？ 誰が？
状況がわかりにくい

田中さんの水遊びを止
めたら、頬を叩く自傷
があった。
支援者も対応に困った。

具体的に記述

具体的な状況が
共有できる

情報共有のベースとなる記録

- ・ 具体的な状況を記録する
- ・ 支援者の主観と具体的な状況をわけて記録
- ・ 「いつ・どこで・誰が・どのように」を意識する
- ・ 読み手を意識する

→具体的な状況を共有することで、支援者の共通認識を持ちやすい

情報共有のベースとなる記録

好ましくない記録の書き方（一例）

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中さん	記入者	支援員B
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
外食	飲食店に行き食事を する	お店の前で走り出すことがあるので、本人の 前に出てジェスチャーで止まってもらい支援 者が安全確認。 店前でスケジュール確認(活動カードを外 す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差 すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。		今日は、とても調子が良くて、 ニコニコ笑顔を見せながら一 緒に歩くことができ、危険なこ ともありませんでした。 ご飯を食べに行くことを本人 もよくわかっているので、とて もスムーズで注文もできまし た。 食べ終わってから、すぐ席を 立ちでかけました。	



Q この記録のどこに課題がありますか？

A 支援手順書に記載されている
支援の結果がわからない

情報共有のベースとなる記録

好ましい記録の書き方（一例）

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中さん	記入者	支援員B
スケジュール	本人の動き	支援者の動き・留意点	本人の様子(記録)		
外食	飲食店に行き食事を する	お店の前で走り出すことがあるので、本人の 前に出てジェスチャーで止まってもらい支援 者が安全確認。 店の前でスケジュール確認(活動カードを外 す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差 すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。	・お店が見える少し前に目の 前に出て止まってもらうように 促したが、振り切り走りだして しまう。 ・店の前で予定の確認はでき ず、そのまま店内へ入る。 ・店内に入り食べたいものをメ ニュー表から落ち着いて選ぶ ことができた。 ・食べ終わり次に行く前に次 の予定カードを見せたところ ですぐに移動した。		
外食	飲食店に行き食事を する	お店の前で走り出すことがあるので、本人の 前に出てジェスチャーで止まってもらい支援 者が安全確認。 店の前でスケジュール確認(活動カードを外 す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差 すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。	・お店が見える前の角から前 に出て止まってもらうジェス チャーをしたところ一緒に止ま ることができた。 ・店の前で予定を確認、メ ニューも落ち着いて選ぶこと ができました。 ・食べ終わったあと、次の活動 のカードを確認し移動した。		

次の支援

手順書に記載さ
れている支援の
結果を、簡素に
記録する。



支援の効果を確認する

- 支援に取り組んだ結果が記録として残っていると振り返りしやすい
- 支援の結果を振り返りながら、その支援が適切かどうか？改善点があるか？を確認していく

計画の見直し

- ・ 記録をもとに
- ・ 上手くいった支援は継続・発展させる
- ・ 上手くいかなかった支援は見直しする

= 見直しを繰り返しより本人にあった
支援手順書に

- ・ 支援手順書に基づいて支援したが上手くいかなかったなので自分の時は対応を変えている

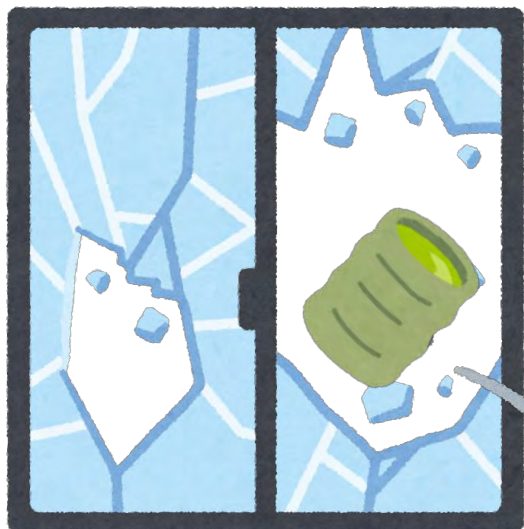
→バラバラの支援に

緊急時は除く

- ・ うまくいかなかった時は上司に相談したりチームで共有する
- ・ チームで共有し支援手順書を改定していく
- ・ 日々の「報告・連絡・相談」が大切 

チームプレイの事例

ある生活介護事業所の話



チームプレイの事例

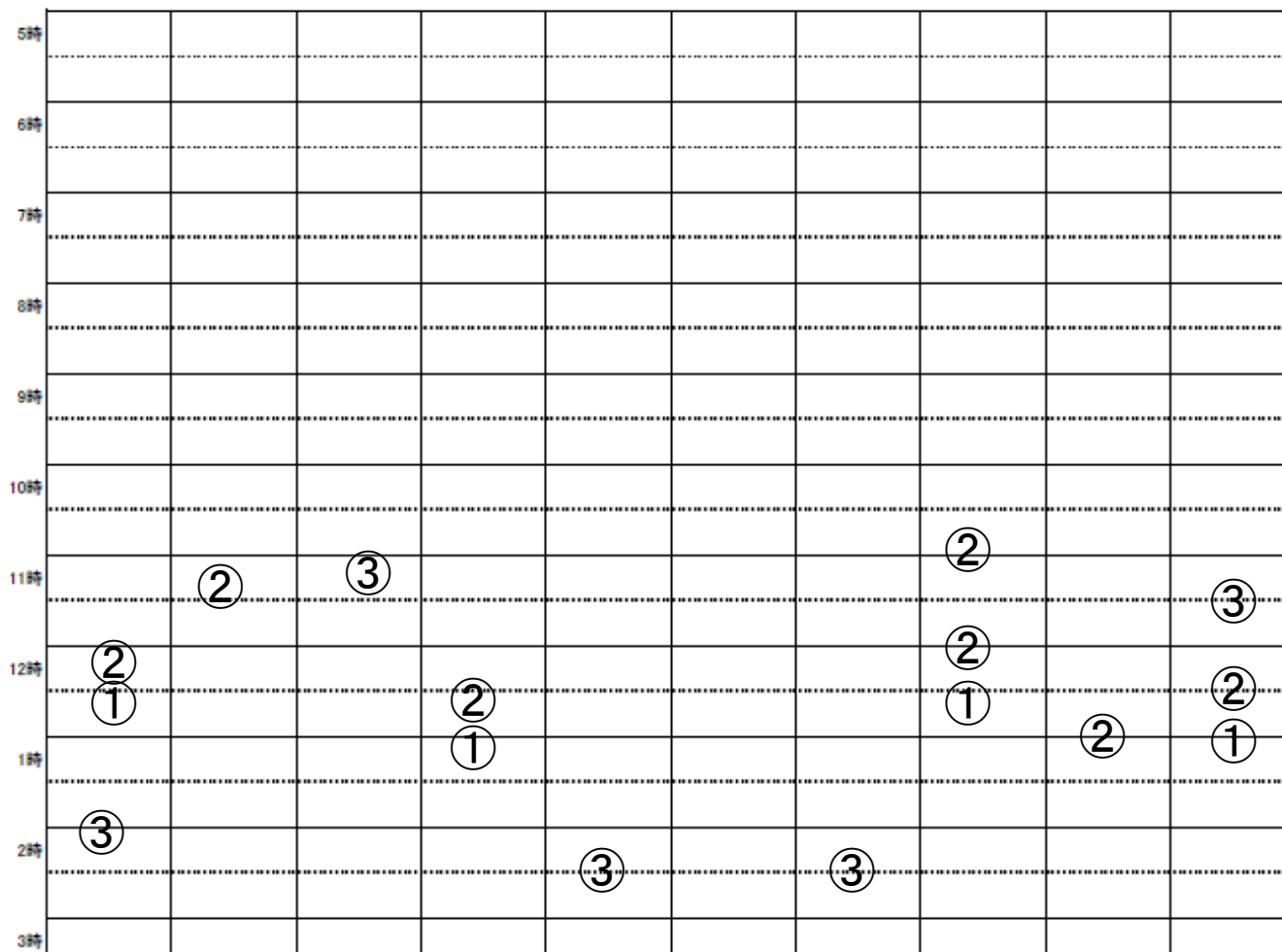


- 情報の共有方法
- 記録方法
- 毎週必ず振り返り、来週の対応を話し合う
- うまくいかない時の対応

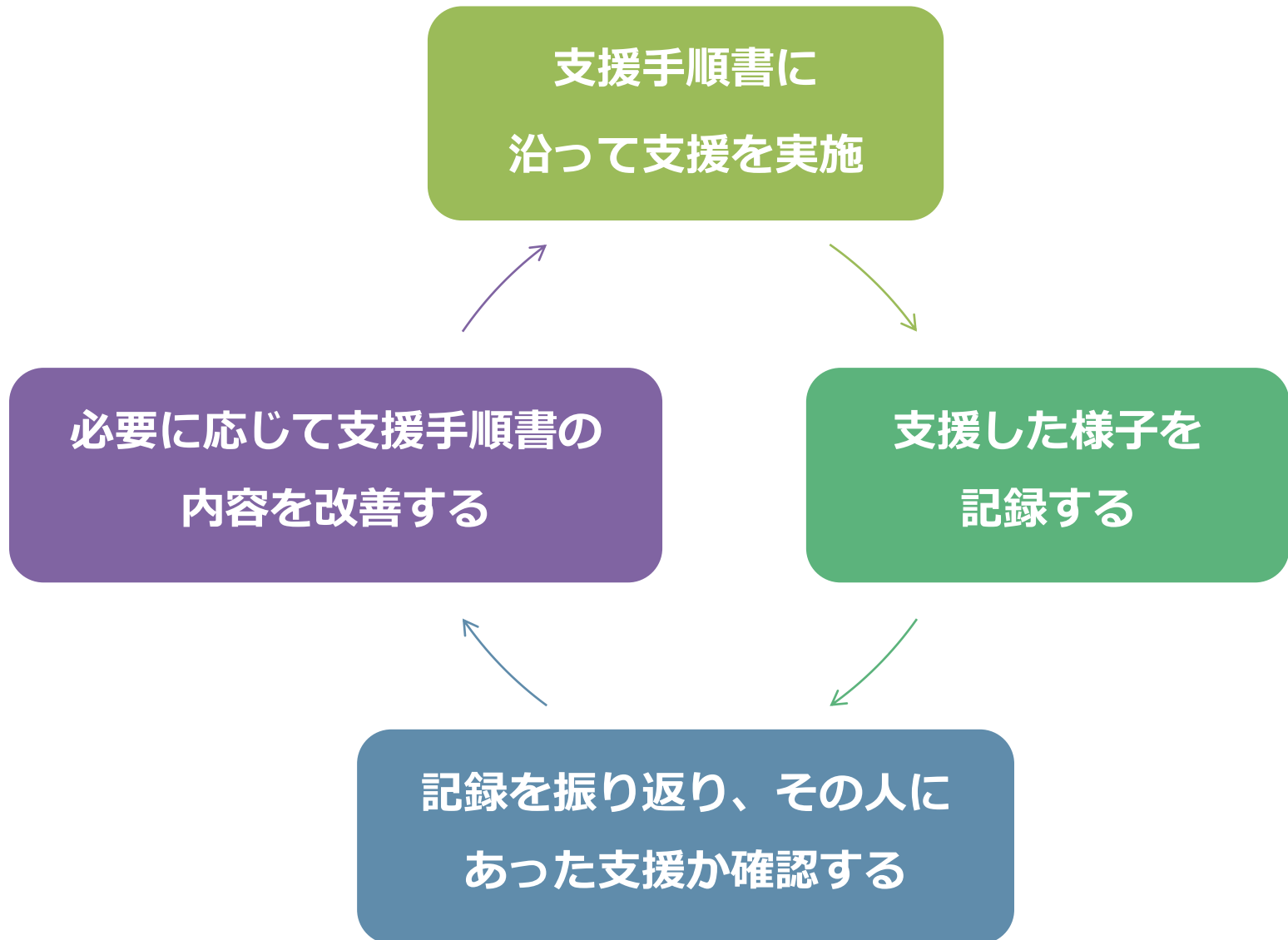
スキャッタープロットによる記録（例）

<観察する行動>

①窓ガラスを割る ②湯呑を投げる ③トイレトペーパー



支援の実施



支援の振り返り



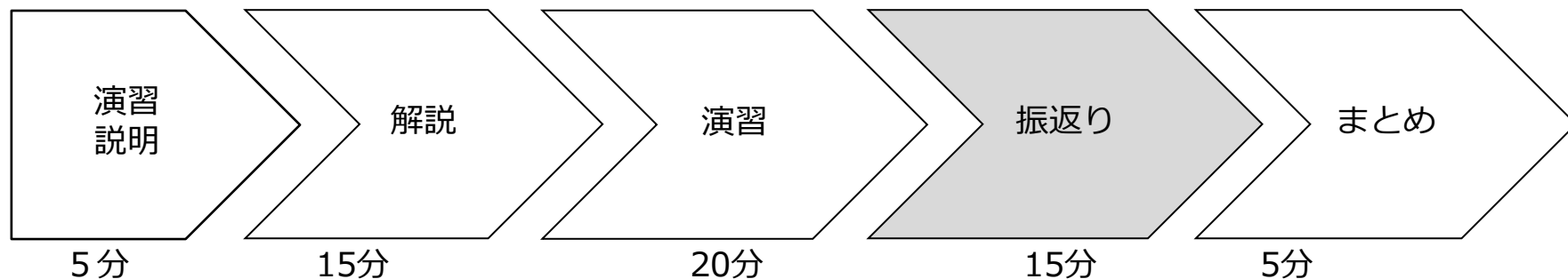
- 情報の共有方法
- 記録の確認
- 変更点の共有と実施時期
- 次回の日程

チームプレイの基本

- ・ 支援手順書に基づく支援の体験

－ 指導者研修用 －

演習の流れ



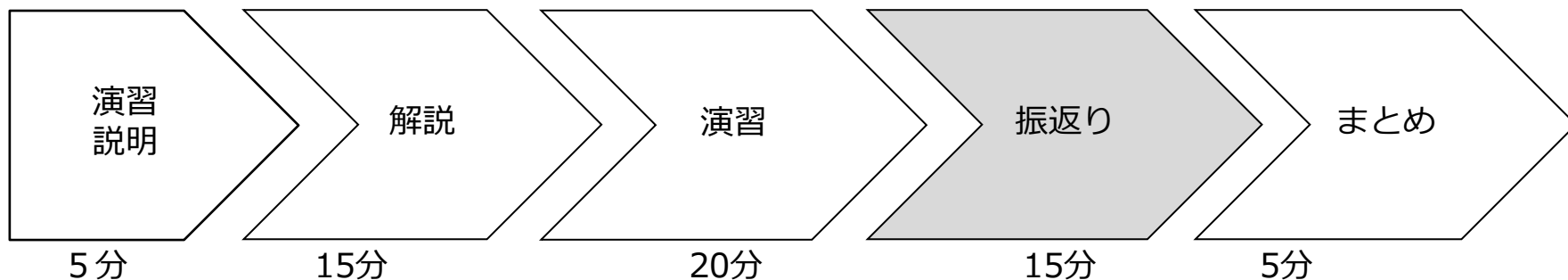
演習説明

使用するシート

- 「外出の支援手順書」

この時間で学ぶこと

- 同じ支援に関わる支援員全員が統一された支援を提供することで、本人が落ち着いて活動することができることを学びます。
- 支援の様子を、的確に記録し反映する事で、次につながる支援記録を残すことを学びます。
- 行った支援を的確に引き継ぎ、同じ質を担保しながら、さらに良い支援を組み立てていくため、職場内の連携を学びます。
- 支援手順書や環境調整(構造化)のアイディア、目で見てわかりやすい手がかりの使い方を体験します。



外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」

田中さんの行動と背景の特性・支援のアイデア

行動	背景の特性	支援のアイデア	田中さんを支援するためのアイデア
• 支援者の声掛けにはエコラリア（反響言語）で答える。	【コミュニケーション】 7) 話し言葉の理解が難しい 10) 話し言葉で伝えることが難しい 11) どのようにして伝えたらいいかわからない	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点） E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）	絵カード（写真、絵、文字）などを活用し、言葉でのやり取りはしない
• 公園を見ると走り出す	【想像力】 19) 先の予測をすることが難しい 22) 興味関心が狭くて強い	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点）	事前に次の活動を伝える
• ブランコに乗るのが好き • 水を触るのが好き	【感覚】 26) 視覚の過敏や鈍麻がある 27) 触覚の過敏や鈍麻がある 30) 前庭覚の特有の感覚がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）	好きな活動を取り入れ、楽しみを提供する

田中さんの行動と背景の特性・支援のアイデア

行動	背景の特性	支援のアイデア	田中さんを支援するためのアイデア
●水を触り始めると、時間を忘れて触っていたくなる ●タイマーが鳴ると水を触ることをやめる	【想像力】 16) 段取りを適切に組むことが難しい 18) 今やることを自分で判断することが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)	タイマーで終わりを伝える
●絵で示した活動スケジュールを見て行動する	【社会性】 6) 見えないものの理解が難しい→見えるものは得意 【コミュニケーション】 7) 話し言葉の理解が難しい 9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい 【想像力】 17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい→具体的な提示は理解できる	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点) D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える (やりとりの視点・見え方の視点)	スケジュールを提示する
●騒がしいところでは耳ふさぎをする	【感覚】 25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする (場所の視点)	声かけを最小限にする

スケジュールと活動カード

スケジュールの
セット



こうえん



おひるごはん



おちゃ



いえにかえる

こうえん

おちゃ

おひるごはん

いえにかえる

ポケット

注：活動内容を示したカード「活動カード」
全体の予定を示したボード「スケジュール」

外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」

田中さんの動き

場面	行動
スケジュール確認	・ 出発前のスケジュール確認では、目線に合わせスケジュールを見せ、指差しされた活動カードを見ることができる
全ての場面	・ 支援者の声掛けにはエコラリア（反響言語）で答える
全ての場面	・ 声掛けが続く、2語分以上の声かけがあると動かない
公園の場面	・ 公園に近づくと走り出す、言葉での制止には反応しない ・ ジェスチャーでの制止には理解し止まる
公園の場面	・ ブランコは10秒ぐらい乗っている
水道で水を触る場面	・ 水道には自分から近寄り水を触る ・ 言葉での制止には反応しない ・ タイマーがなったら「終わり」は理解している
お茶を飲む場面	・ カバンからお茶を取り出し、ペットボトルのキャップを開け飲むことはできる

支援手順書を読んで確認しましょう

先程と同様に、支援手順書に沿った支援映像が流れますので、課題になる点、共有したい点を抽出し、次につながる記録をとってみましょう。

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	田中さん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子（記録）	
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	田中さんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差して予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	田中さんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時は田中さんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づくとき走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前には手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認。（活動カードを外す） ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認（活動カードを外す）、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える ＊田中さんが水遊びを始めた時は、タイマーを10秒にセットし、田中さんに見える様にセットし、「10秒でおいまい」と声掛け。 タイマーがなったら田中さんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店前でスケジュール確認（活動カードを外す）。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。		今回は記入しません。	
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認（活動カードを外す） 家族に田中さんの様子を伝える。		今回は記入しません。	

＊スケジュール確認の手順

- ＊スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
- ＊活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
- ＊次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し単語で伝える

＊本人と関わる際の注意点

- ＊声掛けが多くなると混乱しやすいので、声かけは最小限にする
- ＊公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出すことあり
- ＊事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する



動画を視聴します

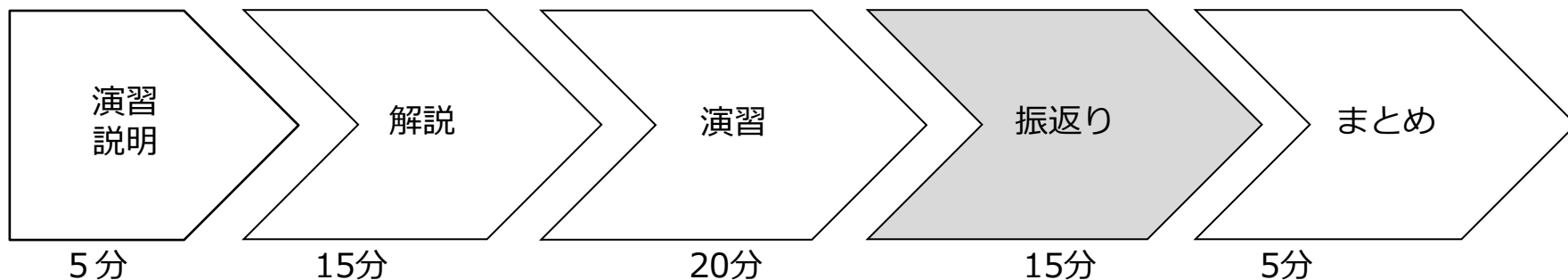
記録をつけましょう

映像をみて、支援手順書に沿った支援ができていたかどうか。

改善点などがあったら一緒に記録しましょう。

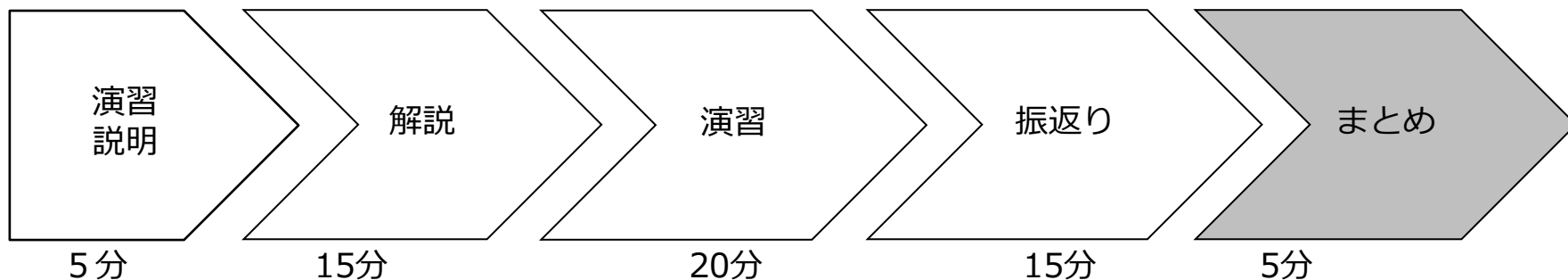
記録する内容

- ・ 田中さんの様子（具体的に記載）
- ・ 共有したい内容



外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」



外出場面での支援手順書と記録の使用 田中さんの支援

■「外出の支援手順書」

まとめ

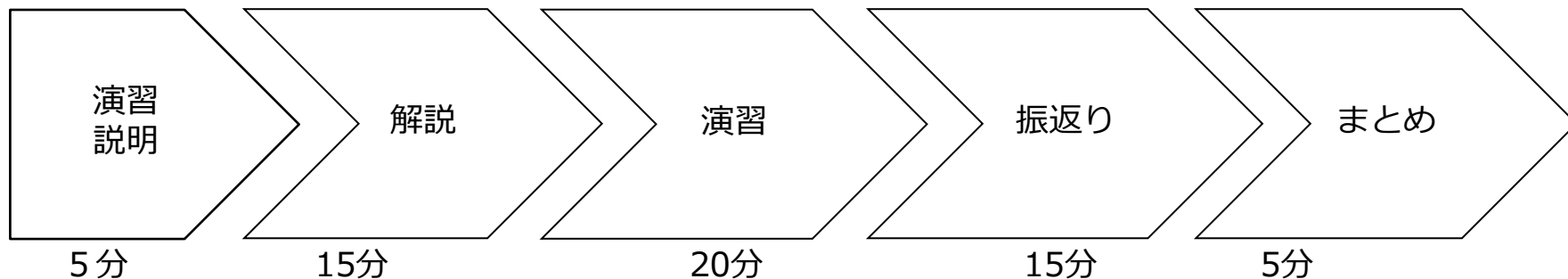
1. 支援手順書に従って関わることが重要
→対応の統一、安定した支援につなげる
2. 支援した結果を記録に確実に残す
→記録を残すことで、次の支援にスムーズに取り組むことができ、課題行動がいつから起きたのかを振り返る事ができるようになり、地域との連携をする際、貴重な情報として活用することができる。
3. 的確に引き継ぐことで、良い支援を提供する
→引き継ぎを行い情報共有することにより、人が変わっても質を担保しながら、より良い支援を提供することができる。

それぞれの地域で実施するときに

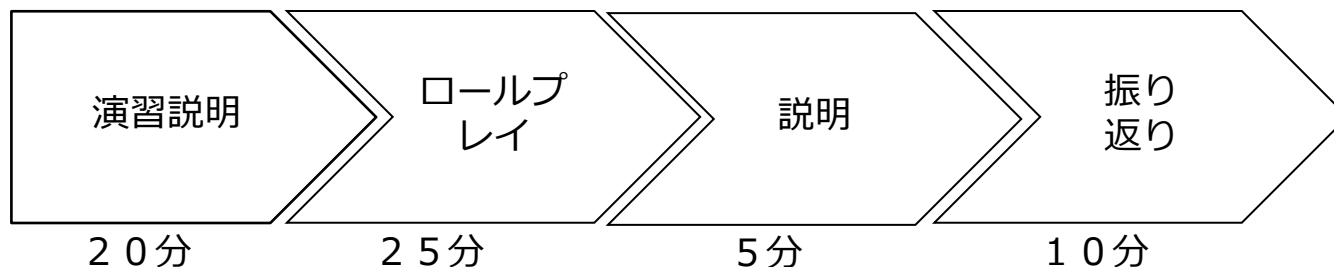
指導者の方へ

- 地方研修において、地域によっては集合研修で行うことがあるかと思います。
- 集合研修においては、今回オンライン研修で行った記録の演習だけではなく、記録を取るために見ていただいた映像の田中さんとヘルパーさんの動きをロールプレイで行っていただき、自分がヘルパー役で行った時の記録を取っていただくようになります。

オンライン研修の流れ



集合研修の流れ



時間はどちらも60分の演習です。

集合研修での追加部分

配役と流れ

「本人役」1名

自閉症で重度知的障害を伴う田中さん
・詳細は、前演習で使った特性確認シートと水山モデルシート参照

「支援者役」1名

・支援手順書の内容をしっかりと確認し、それに沿って田中さんの支援を行う

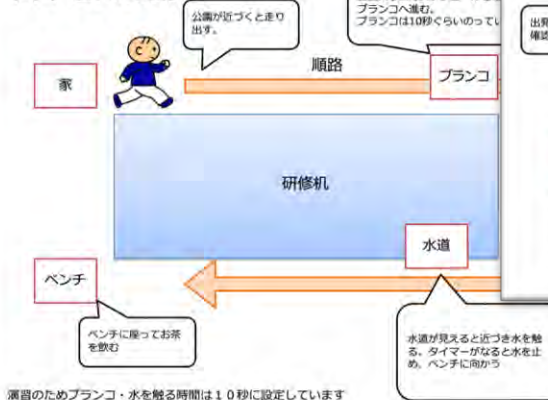
交代で行います

「観察者役」

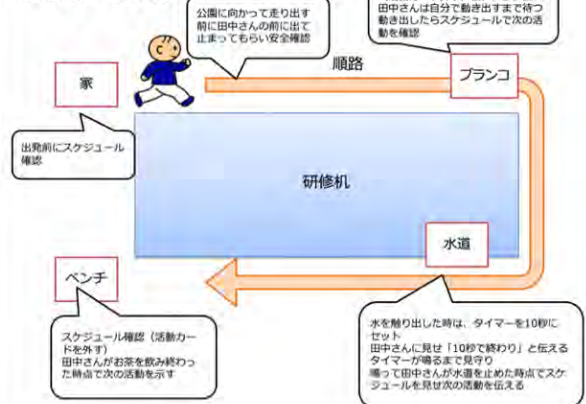
・チェックシートを確認して、演習の様子を支援手順書に記入する
・支援手順書通りに関わっているか？ 視覚的な手がかりに注目できていたか？などを観察する

ロールプレイ終了後支援者役は支援手順書に記録を書く
記入後は観察者役に

田中さんの動き



支援者の動き



観察者役の注意して見守って欲しい点

チェック項目	
支援者の理解	支援手順書を理解し、その通りに関わっている
	視覚的な手がかりの意味を理解して関わっている
支援者の関わり方	視覚的な手がかりに注目させている
	過度な声掛けは控えている
	指示は一つずつ伝えている (声掛けとジェスチャーは同時にしないなど)
	田中さんのペースに合わせて関わっている

記録をつける

支援者役はロールプレイの終了後に、自分が行った支援の様子を支援手順書の記録欄に記録する

記録する内容

・田中さんの様子(具体的に記載)

集合研修用のスライドは別のデータとして提供いたします。

集合研修での追加部分

配役と流れ

「本人役」1名

自閉症で重度知的障害を伴う田中さん
・詳細は、前演習で使用した特性確認シートと氷山モデルシート参照

「支援者役」1名

・支援手順書の内容をしっかりと確認し、それに沿って田中さんの支援を行う

交代で行います

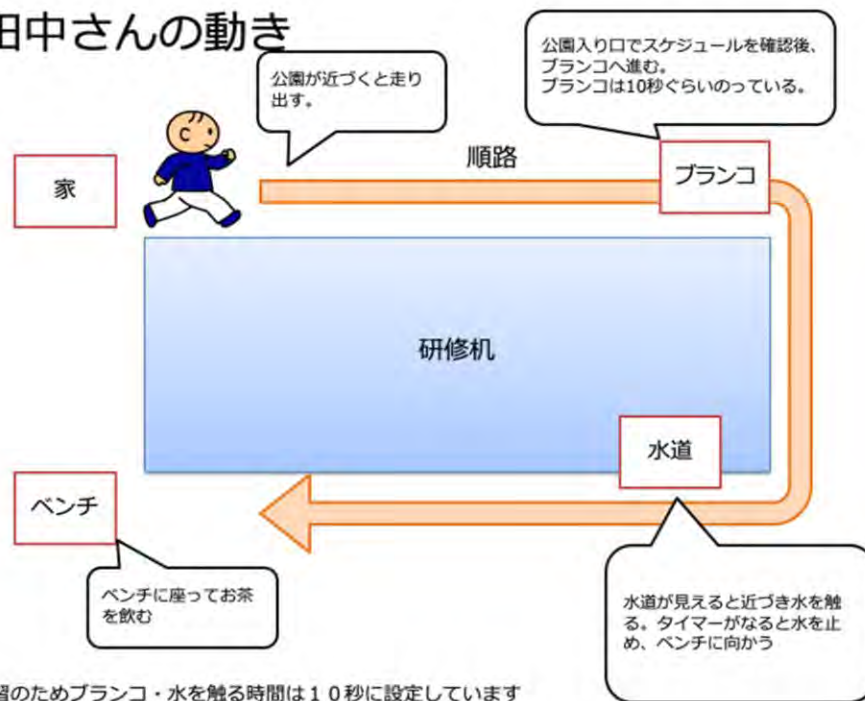
ロールプレイ終了後支援者役は支援手順書に記録を書く
記入後は

「観察者役」

- ・チェックシートを確認して、演習の様子を支援手順書に記入する
- ・支援手順書通りに関わっていたか？ 視覚的な手がかりに注目できていたか？などを観察する

ロールプレイは、グループ全員が全ての役を持ち回りで行います。本人、支援者役以外は、観察者役として、手順書通りに行動することができていたか確認し、後ほどグループワークで発表します。

田中さんの動き

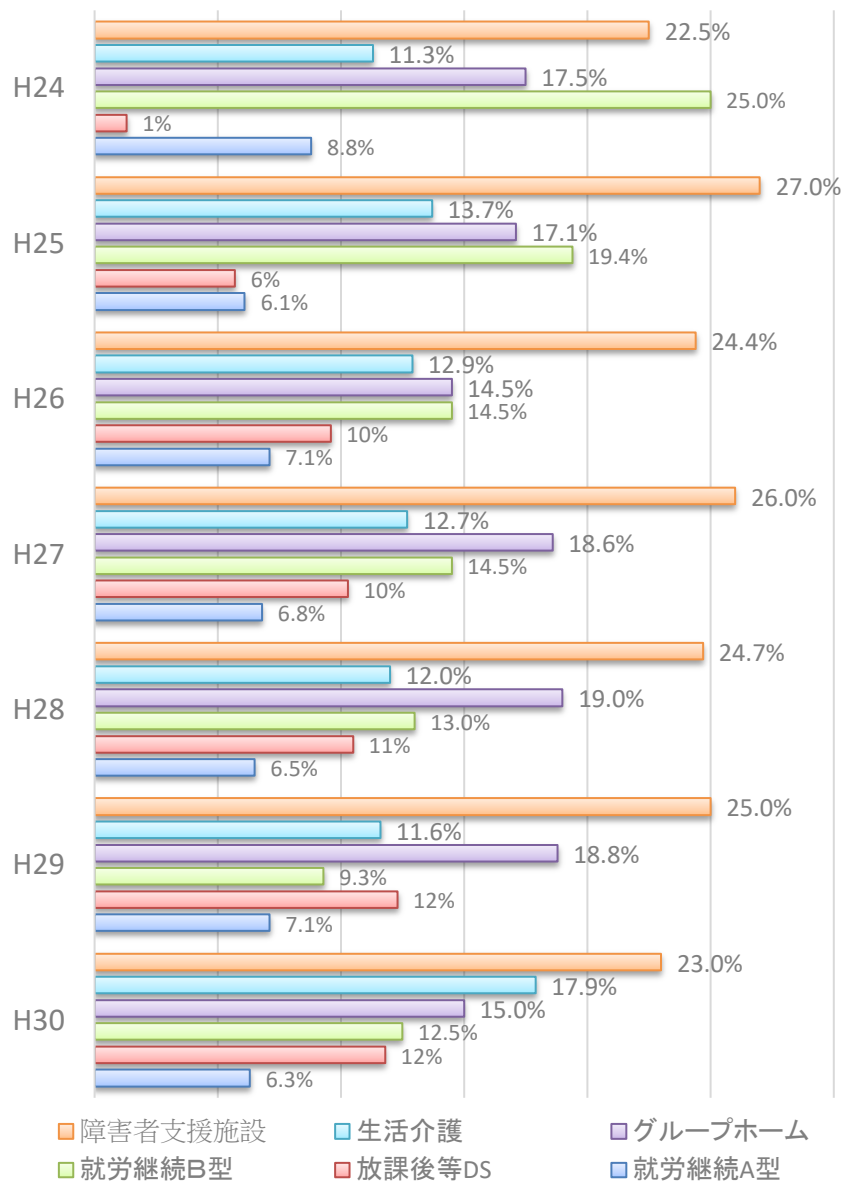


研修の意義

- ・ 行動障害と虐待防止

障害者虐待対応状況調査

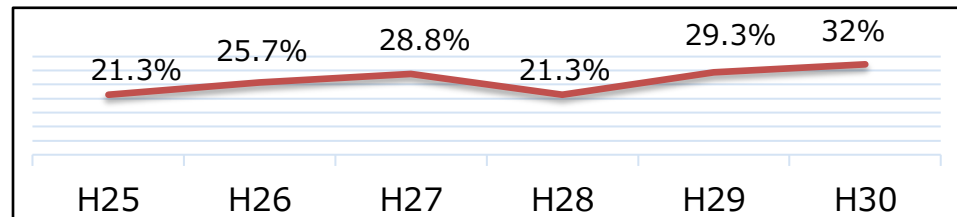
<障害者福祉施設従事者等による障害者虐待> (抜粋)



被虐待者の割合

	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病等
H24	19.7%	54.5%	39.3%	1.7%	0.6%
H25	29.2%	79.8%	14.1%	6.4%	1.8%
H26	21.9%	75.6%	13.5%	2.3%	0.0%
H27	16.7%	83.3%	8.8%	2.3%	0.0%
H28	14.4%	68.6%	11.8%	3.6%	0.7%
H29	22.2%	71.0%	16.7%	5.1%	2.7%
H30	22.7%	74.8%	13.5%	4.2%	0.5%

行動障害のある者の割合



発生要因の割合

市区町村等職員が判断した虐待の発生要因	H27	H28	H29	H30
教育・知識・介護技術等に関する問題	56.1%	65.1%	59.7%	73.1%
職員のストレスや感情コントロールの問題	42.0%	52.2%	47.2%	57.0%
倫理観や理念の欠如	43.9%	53.0%	53.5%	52.8%
虐待を助長する組織風土や職員間の関係性の悪さ	24.8%	22.0%	19.1%	22.6%
人員不足や人員配置の問題及び関連する多忙さ	23.0%	22.0%	19.6%	20.4%

強度行動障害支援者養成研修について

- 強度行動障害を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどを特徴としているため、現状では事業所の受入れが困難であったり、受入れ後の不適切な支援により、利用者に対する虐待につながる可能性も懸念されている。
- 一方で、施設等において適切な支援を行うことにより、他害行為などの危険を伴う行動の回数が減少するなどの支援の有効性も報告されていることから、地域生活支援事業において、強度行動障害を有する者に対して適切な支援を行う職員の人材育成を目的とする体系的な研修を実施しているところ。

国立のぞみの園



都道府県



障害福祉サービス等事業所

サービス管理責任者クラスの職員



平成26年度～ 強度行動障害支援者養成研修
(実践研修) 講義＋演習(12時間)

支援現場の職員



平成25年度～ 強度行動障害支援者養成研修
(基礎研修) 講義＋演習(12時間)

強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)(実践研修)の位置づけ

強度行動障害支援者養成研修(実践研修)

①アセスメント

行動観察・情報収集
障害特性の理解

行動の
分析
理解

・本人が困っていること
・本人ができる事、強み
・本人の特性
の把握

②支援の計画 (支援の手順書)

- A. 本人の困難を軽減したり取り除く
B. 本人ができること、強みを活用する
- ※ 支援計画は場面ごと、工程ごとに丁寧に作る必要がある。

A, Bを組み合わせた具体的な
ツールの作成や構造化、環境調
整などの支援計画の立案
支援の方向性は基本に忠実に
具体策やツールは個別化する

支援の結果等のフィードバック

③支援

・障害特性の理解 ・支援の手順書に基づく支援 ・日々の記録等

強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)

障害者虐待防止法の概要

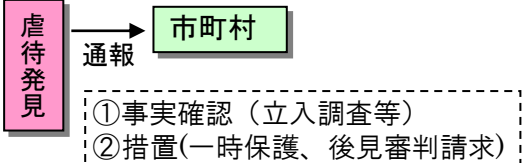
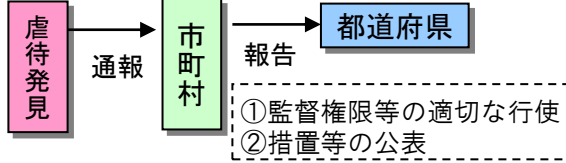
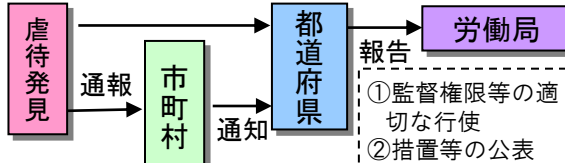
(平成23年6月17日成立、同6月24日公布、
平成24年10月1日施行)

定義

- 「障害者」とは、身体・知的・精神障害その他の心身の機能の障害がある者であつて、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活・社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。
- 「障害者虐待」とは、次の3つをいう。
 - ①養護者による障害者虐待
 - ②障害者福祉施設従事者等による障害者虐待
 - ③使用者による障害者虐待
- 障害者虐待の類型は、次の5つ。(具体的要件は、虐待を行う主体ごとに微妙に異なる。)
 - ①身体的虐待 (障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること)
 - ②放棄・放置 (障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置等による①③④の行為と同様の行為の放置等)
 - ③心理的虐待 (障害者に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと)
 - ④性的虐待 (障害者にわいせつな行為をすること又は障害者をしてわいせつな行為をさせること)
 - ⑤経済的虐待 (障害者から不当に財産上の利益を得ること)

虐待防止施策

- 何人も障害者を虐待してはならない旨の規定、障害者の虐待の防止に係る国等の責務規定、障害者虐待の早期発見の努力義務規定を置く。
- 「障害者虐待」を受けたと思われる障害者を発見した者に速やかな通報を義務付けるとともに、障害者虐待防止等に係る具体的スキームを定める。

養護者による障害者虐待	障害者福祉施設従事者等による障害者虐待	使用者による障害者虐待
[市町村の責務] 相談等、居室確保、連携確保	[設置者等の責務] 当該施設等における障害者に対する虐待防止等のための措置を実施	[事業主の責務] 当該事業所における障害者に対する虐待防止等のための措置を実施
[スキーム]  <pre>graph LR; A[虐待発見] -- 通報 --> B[市町村]; B -.-> C["①事実確認(立入調査等) ②措置(一時保護、後見審判請求)"]</pre>	[スキーム]  <pre>graph LR; A[虐待発見] -- 通報 --> B[市町村]; B -- 報告 --> C[都道府県]; B -.-> D["①監督権限等の適切な行使 ②措置等の公表"]</pre>	[スキーム]  <pre>graph LR; A[虐待発見] -- 通報 --> B[市町村]; B -- 通知 --> C[都道府県]; B -- 報告 --> D[労働局]; B -.-> E["①監督権限等の適切な行使 ②措置等の公表"]</pre>

- 就学する障害者、保育所等に通う障害者及び医療機関を利用する障害者に対する虐待への対応について、その防止等のための措置の実施を学校の長、保育所等の長及び医療機関の管理者に義務付ける。

区 分	内 容 と 具 体 例
身体的虐待	暴力によって身体に傷やあざ、痛みを与える行為。身体を縛り付けたり、過剰な投薬によって動きを抑制する行為。 【具体的な例】 ・平手打ちする ・殴る ・蹴る ・壁に叩きつける ・つねる ・無理やりに食べ物や飲み物を口にに入れる ・やけど ・打撲させる ・身体拘束(柱やベッドに縛り付ける、医療的必要性に基づかない投薬によって動きを抑制する、ミトンやつなぎ服を着せる、部屋に閉じ込める、施設側の管理の都合で睡眠薬等を服用させる等)
性的虐待	性的な行為やその強要(表面上は同意しているように見えても、本心からの同意かどうかを見極める必要がある) 【具体的な例】 ・性行 ・性器への接触 ・性的行為を強要する ・裸にする ・キスする ・本人の前でわいせつな言葉を発する、又は会話する ・わいせつな映像を見せる ・更衣やトイレ等の場面をのぞいたり映像や動画を撮影する
心理的虐待	脅し、侮辱などの言葉や態度、無視、嫌がらせ等によって精神的苦痛を与えること。 【具体的な例】 ・「バカ」「あほ」等障害者を侮辱する言葉を浴びせる ・怒鳴る ・ののしる ・悪口を言う ・仲間に入れない ・子ども扱いする ・人格をおとしめるような扱いをする ・話しているのに意図的に無視する
放棄・放置	食事や排泄、入浴、洗濯等身の世話や介助をしない、必要な福祉サービスや医療や教育を受けさせない等によって障害者の生活環境や身体・精神的状態を悪化、又は不当に保持しないこと。 【具体的な例】 ・食事や水分を十分に与えない ・食事の著しい偏りによって栄養状態が悪化している ・あまり入浴させない ・汚れた服を着させ続ける ・排泄の介助をしない ・髪や爪が伸び放題 ・室内の掃除をしない ・ごみを放置したままにしてある等劣悪な住環境の中で生活させる ・病気やけがをしても受診させない ・学校に行かせない ・必要な福祉サービスを受けさせない ・制限する ・同居人による身体的虐待や性的虐待、心理的虐待を放置する
経済的虐待	本人の同意なしに(あるいはだます等して)財産や年金、賃金を使ったり勝手に運用し、本人が希望する金銭の使用を理由なく制限すること。 【具体的な例】 ・年金や賃金を渡さない ・本人の同意なしに財産や預貯金分を処分・運用する ・日常生活に必要な金銭を渡さない・使わせない ・本人の同意なしに年金等を管理して渡さない。

法施行後の状況

平成30年度 都道府県・市区町村における障害者虐待事例への対応状況等(調査結果)

厚生労働省では、平成30年度都道府県・市区町村における障害者虐待事例への対応等に関する状況について調査を実施しました。このほど、全国的な状況に関する調査結果がまとまりましたので公表します。

【調査結果(全体像)】

	養護者による 障害者虐待	障害者福祉施設従事者等 による障害者虐待		使用者による障害者虐待	
				(参考)都道府県労働局の対応	
市区町村等への 相談・通報件数	5,331件 (4,649件)	2,605件 (2,374件)	641件 (691件)	虐待判断 件数	541件 (597件)
市区町村等による 虐待判断件数	1,612件 (1,557件)	592件 (464件)			
被虐待者数	1,626人 (1,570人)	777人 (666人)			被虐待者数

(注1) 上記は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までに虐待と判断された事例を集計したもの。

カッコ内については、前回調査(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)のもの。

(注2) 都道府県労働局の対応については、令和元年年8月28日雇用環境・均等局総務課労働紛争処理業務室のデータを引用。「虐待判断件数」は「虐待が認められた事業所数」と同義。）

平成30年度 障害者虐待対応状況調査＜障害者福祉施設従事者等による障害者虐待＞

相談 通報

2,605件

主な通報 届出者内訳

- 当施設・事業
所職員 (17.9%)
- 本人による届出
(17.8%)
- 家族・親族
(12.9%)
- 設置者・管理者
(12.6%)
- 相談支援専門員
(9.0%)

2,310件

市区町村

* 平成29年度に通報・届出があった事案90件を含む

事実確認調査 (2,656件)

事実確認調査を行った事例 2,244件

うち、虐待の事実が認められた事例
672件

うち、さらに都道府県による事実確認
調査が必要とされた事例 7件

事実確認調査を行わなかった事例 412件

うち、都道府県へ事実確認調査を
依頼した事例 9件

295件

256件(連絡した市区町村数)

都道府県

* 平成29年度に通報・届出があった事案3件を含む

* 監査・実地指導等により判明した事案7件を含む

虐待の事実 が認められ た事例

592件

被虐待者
777人※1

虐待者
634人※2

(死亡事例:
2人)

障害者総合支援法等 による権限行使等※3

市区町村による指導等

- ・施設等に対する指導 389件
- ・改善計画提出依頼 309件
- ・従事者への注意・指導 175件

障害者総合支援法等 による権限の行使等

- ・報告徴収・出頭要請・質問・
立入検査 191件
- ・改善勧告 38件
- ・改善命令 1件
- ・指定の全部・一部停止 8件
- ・指定取消※4 3件
- ・都道府県・政令市・中核市等
による指導 266件

虐待者(634人)

- 性別
男性(70.5%)、女性(29.5%)
- 年齢
60歳以上(18.5%)、50～59歳(17.5%)
40～49歳(15.3%)
- 職種
生活支援員(42.3%)、
その他従事者(10.3%)、
管理者(9.5%)、世話人(7.1%)、
サービス管理責任者(4.9%)

市区町村等職員が判断した虐待の発生要因(複数回答)

教育・知識・介護技術等に関する問題	73.1%
職員のストレスや感情コントロールの問題	57.0%
倫理観や理念の欠如	52.8%
虐待を助長する組織風土や職員間の関係性の悪さ	22.6%
人員不足や人員配置の問題及び関連する多忙さ	20.4%

虐待行為の類型(複数回答)

身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	放棄、放置	経済的虐待
51.7%	13.3%	42.6%	5.7%	7.1%

障害者虐待が認められた事業所種別

	件数	構成割合
障害者支援施設	136	23.0%
居宅介護	16	2.7%
重度訪問介護	6	1.0%
行動援護	1	0.2%
療養介護	15	2.5%
生活介護	106	17.9%
短期入所	17	2.9%
自立訓練	2	0.3%
就労移行支援	4	0.7%
就労継続支援A型	37	6.3%
就労継続支援B型	74	12.5%
共同生活援助	89	15.0%
一般相談支援事業所及び特定相談支援事業所	2	0.3%
移動支援事業	4	0.7%
地域活動支援センターを運営する事業	7	1.2%
福祉ホームを運営する事業	1	0.2%
児童発達支援	4	0.7%
放課後等デイサービス	70	11.8%
児童相談支援事業	1	0.2%
合計	592	100.0%

被虐待者(777人)

- 性別
男性(65.6%)、女性(34.4%)
- 年齢
20～29歳(18.8%)、40～49歳(18.1%)
～19歳(18.0%)、30～39歳(14.5%)
- 障害種別(重複障害あり)

身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病等
22.7%	74.8%	13.5%	4.2%	0.5%

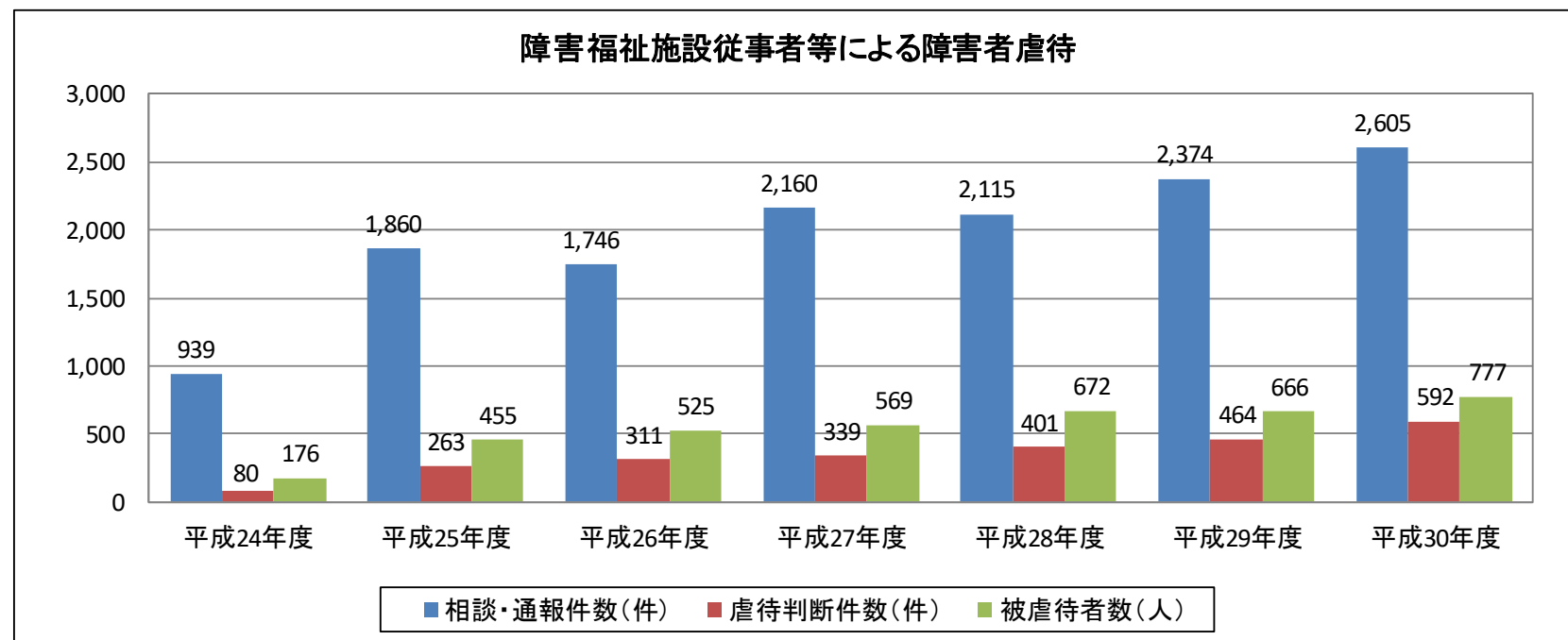
- 障害支援区分のある者 (67.1%)
- 行動障害がある者 (32.3%)

- ※1 不特定多数の利用者に対する虐待のため被虐待障害者が特定できなかった等の18件を除く574件が対象。
- ※2 施設全体による虐待のため虐待者が特定できなかった52件を除く540件が対象。
- ※3 平成30年度末までに行われた権限行使等。
- ※4 指定取消は、虐待行為のほか人員配置基準違反や不正請求等の違反行為等を理由として行ったもの。
- ※5 同じ事例で、複数の市区町村が報告した事例等があるため一致しない

障害者虐待対応状況調査＜障害者福祉施設従事者等による障害者虐待＞ 経年グラフ

- ・平成30年度の障害者福祉施設従事者等職員による障害者虐待の相談・通報件数は2,605件であり、平成29年度から1割増加(2,374件→2,605件)。
- ・平成30年度の虐待判断件数は592件であり、平成29年度から28%増加(464件→592件)。
- ・平成30年度の被虐待者数は777人。

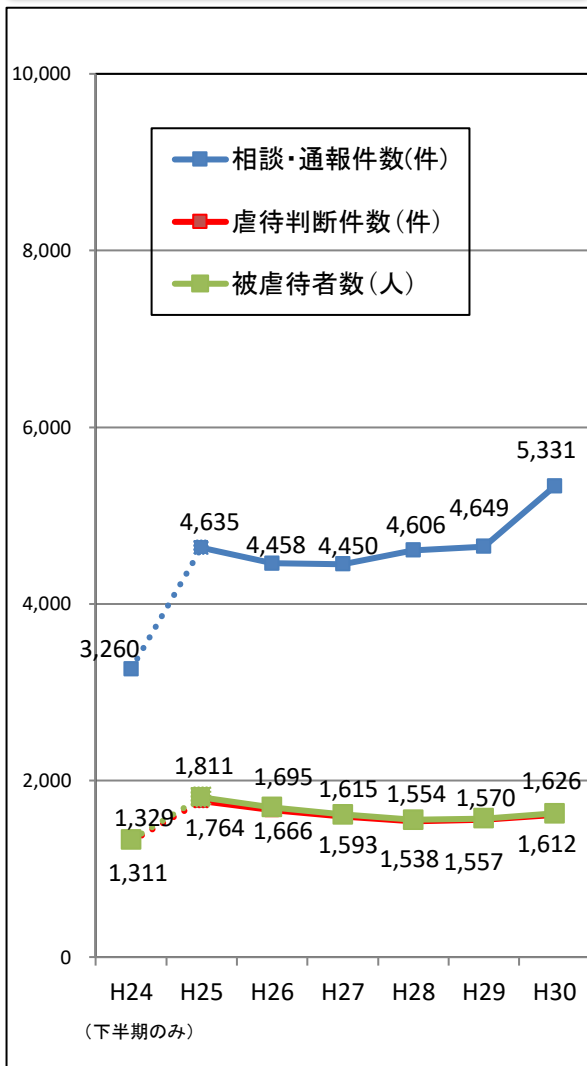
障害福祉従事者	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
相談・通報件数(件)	939	1,860	1,746	2,160	2,115	2,374	2,605
虐待判断件数(件)	80	263	311	339	401	464	592
被虐待者数(人)	176	455	525	569	672	666	777



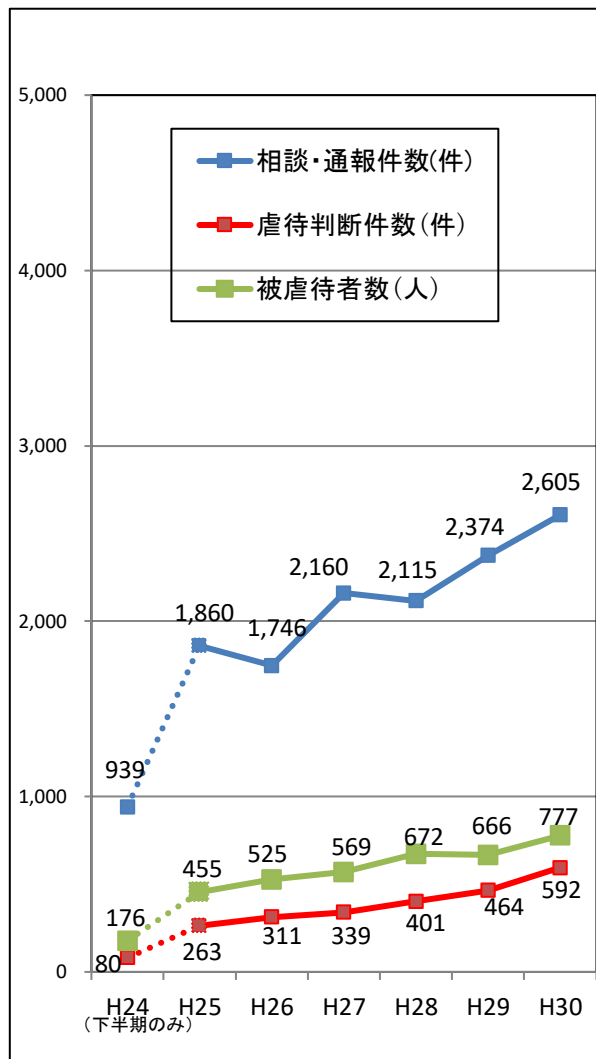
* 平成24年度は下半期のみのデータ

障害者虐待事例への対応状況等(調査結果)経年比較

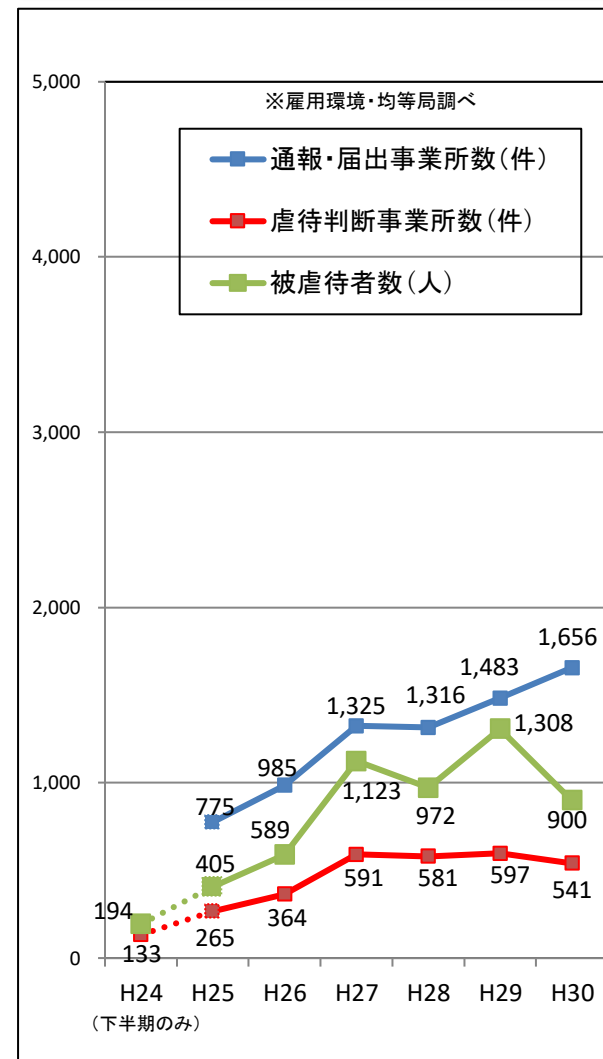
養護者による障害者虐待



障害福祉施設従事者等による障害者虐待



使用者による障害者虐待



注：平成24年度のデータは下半期のみのデータであり、経年比較としては平成25年度から平成30年度の6ヶ年分が対象。

障害者虐待の早期発見と通報義務・通報者の保護について

第六条 第二項 障害者福祉施設、学校、医療機関、保健所その他障害者の福祉に業務上関係のある団体並びに障害者福祉施設従事者等、学校の教職員、医師、歯科医師、保健師、弁護士その他障害者の福祉に職務上関係のある者及び使用者は、障害者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、障害者虐待の早期発見に努めなければならない。



(障害者福祉施設従事者等による障害者虐待に係る通報等)

第十六条 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待を受けたと思われる障害者を発見した者は、速やかに、これを市町村に通報しなければならない。

2 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待を受けた障害者は、その旨を市町村に届け出ることができる。

3 刑法の秘密漏示罪の規定その他の守秘義務に関する法律の規定は、第一項の規定による通報(虚偽であるもの及び過失によるものを除く。次項において同じ。)をすることを妨げるものと解釈してはならない。

4 障害者福祉施設従事者等は、第一項の規定による通報をしたことを理由として、解雇その他不利益な取扱いを受けない。

A施設

虐待を受けたと
思われる障害者
を発見した人



通報義務



サービス管理
責任者



通報義務



施設長
管理者



通報義務



相談



相談

市町村障害者虐待防止センター

通報は、すべての人を救う

- 利用者の被害を最小限で食い止めることができる。
- 虐待した職員の処分や刑事責任、民事責任を最小限で留めることができる。
- 理事長、施設長など責任者への処分、民事責任、道義的責任を最小限で留めることができる。
- 虐待が起きた施設、法人に対する行政責任、民事責任、道義的責任を最小限で留めることができる。

身体拘束の廃止に向けて

障害者虐待防止法では、「正当な理由なく障害者の身体を拘束すること」は身体的虐待に該当する行為とされています。**身体拘束の廃止は、虐待防止において欠くことのできない取り組み**といえます。

やむを得ず身体拘束を行うときの留意点

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設等の人員、設備及び運営に関する基準」等には、**緊急やむを得ない場合を除き身体拘束等を行ってはならない**とされています。さらに、やむを得ず身体拘束等を行う場合には、**その様態及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録しなければならない**とされています。

緊急やむを得ない場合とは・・・

① 切迫性

利用者本人又は他の利用者等の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高いことが要件となります。

② 非代替性

身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がないことが要件となります。

③ 一時性

身体拘束その他の行動制限が一時的であることが要件となります。

身体拘束等の適正化（平成30年度から）

○身体拘束等の適正化を図るため、身体拘束等に係る記録をしていない場合について、基本報酬を減算する。

《身体拘束廃止未実施減算【新設】》 5単位／日

※療養介護、生活介護、短期入所、施設入所支援、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、共同生活援助、児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設等

○障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設等の人員、設備及び運営に関する基準
(身体拘束等の禁止)

第四十八条 指定障害者支援施設等は、施設障害福祉サービスの提供に当たっては、利用者又は他の利用者の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為(以下「身体拘束等」という。)を行ってはならない。

2 指定障害者支援施設等は、やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録しなければならない。

(1) やむを得ず身体拘束を行う場合の3要件

- ①切迫性：利用者本人又は他の利用者等の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高いこと
- ②非代替性：身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がないこと
- ③一時性：身体拘束その他の行動制限が一時的であること

(2) やむを得ず身体拘束を行うときの手続き

- ① 組織による決定と個別支援計画への記載
- ② 本人・家族への十分な説明
- ③ 必要な事項の記録

(身体拘束廃止未実施減算の取扱い)

問1 身体拘束廃止未実施減算について、適用にあたっての考え方如何。

(答)

身体拘束の取扱いについては、以下の参考において、示されているところであるが、やむを得ず身体拘束を行う場合における当該減算の適用の可否にあたっては、これらの取扱いを十分に踏まえつつ、特に以下の点に留意して判断いただきたい。

- 利用者に係る座位保持装置等に付属するベルトやテーブルは、脊椎の側わんや、四肢、関節等の変形・拘縮等の進行あるいは防止のため、医師の意見書又は診断書により製作し、使用していることに留意する。
- その上で、身体拘束に該当する行為について、目的に応じて適時適切に判断し、利用者の状態・状況に沿った取扱いがなされているか。
- その手続きについては障害福祉サービス等の事業所・施設における組織による決定と個別支援計画への記載が求められるが、記載の内容については、身体拘束の様態及び時間、やむを得ない理由を記載し、関係者間で共有しているか。
- なお、ケア記録等への記載については、必ずしも身体拘束を行う間の常時の記録を求めているわけではなく、個別支援計画には記載がない緊急やむを得ず身体拘束を行った場合には、その状況や対応に関する記載が重要である。
- 行動障害等に起因する、夜間等他利用者への居室への侵入を防止するために行う当該利用者居室の施錠や自傷行為による怪我の予防、保清を目的とした不潔行為防止のための身体拘束については頻繁に状態、様態の確認が行われている点に留意願いたい。
- これらの手続きや対応について、利用者や家族に十分に説明し、了解を得ているか。等
- なお、身体拘束の要件に該当しなくなった場合においては、速やかに解除することについてもご留意願いたい。

以上を踏まえ、最終的には利用者・家族の個別具体的な状況や事情に鑑み、判断されたい。